

令和4年度 西東京三大学連携事業 英語化科目 特別聴講学生募集要項

1 本制度の実施趣旨

東京外国語大学、東京農工大学、電気通信大学、の西東京3大学は、連携して文系及び理系のそれぞれの強みを生かした「文理協働型グローバル人材育成プログラム」を実施している。本取り組み（英語化科目）は、連携事業の一環として実施するものであり、3大学はそれぞれの特徴を生かした共通教育科目を英語で開講する。学生は、他大学の授業を相互に受講し合うことで、国際感覚や語学力の養成、幅広い視野の獲得及び所属大学や文理の垣根を超えた交流、の機会を得る。なお、受入れ側の他大学（以下、「受入れ大学」という。）において修得した単位は、単位互換制度等により、学生を派遣した所属大学（以下、「派遣大学」という。）において修得した単位として認定される。

2 出願資格

令和4年4月1日現在、東京外国語大学、東京農工大学及び電気通信大学に在籍する1～3年次までの学部学生で、所属大学以外の他の2大学において授業科目の履修を希望する者。ただし、最終講義が12月までに終了する科目については、学部4年次生の履修を認める。

3 授業料等

特別聴講学生の検定料、入学科及び授業料は徴収しない。

4 開放科目

別紙のとおり（開講日程はシラバスを参照すること）

5 出願手続等

出願者は、令和4年5月13日（金）14時までに、Google フォームにて申請すること。

他大学開講科目を希望の場合、下記の書類が必要となる。該当者には別途連絡する。

① 写真1枚（縦4cm、横3cm）メールに写真データを添付して提出。

② 成績証明書（1年生は不要）

※本学開講科目の履修に当たっては、以下の留意点を確認したうえで申請すること。

- ・ 他大学開講科目と同様に、学部1～3年次生を履修対象とする。

ただし、最終講義が12月までに終了する科目については、学部4年次生の履修を認める。

- ・ 所属学部と異なる学部が開講する科目の履修も可とする。

6 受入可否の通知

派遣大学を通じ、7月中旬に通知する。

7 履修期間

履修する授業科目が開講される学期または年度とし、1年以内とする。

8 試験の実施方法

受験上の取扱い等については、受入れ大学の規則による。

9 単位認定

受入れ大学からの成績通知に基づき、派遣大学において自由選択単位として認定する。

10 受入れ大学の施設の利用

履修上必要な施設・設備（附属図書館、食堂等）を利用することができる。なお、通学する際には派遣大学の学生証を携帯すること。

11 授業時間割

【東京外国語大学】

1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限
8:30～10:00	10:10～11:40	12:40～14:10	14:20～15:50	16:00～17:30	17:40～19:10

【東京農工大学】

1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限
8:45～10:15	10:30～12:00	13:00～14:30	14:45～16:15	16:30～18:00	18:15～19:45

※令和4年度学年暦では、前学期2回、後学期1回の合計3回の土曜・祝日開講があります。
詳細は学年暦をご覧ください。

【電気通信大学】

1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限	7時限
9:00～10:30	10:40～12:10	13:00～14:30	14:40～16:10	16:15～17:45	17:50～19:20	19:30～21:00

12 その他

英語化科目の受講風景など、撮影した写真を広報用の web 及びパンフレットに使用する可能性がある。

13 各大学の所在地及び問い合わせ先

【東京外国語大学】

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1

東京外国語大学学務部教務課 (TEL:042-330-5168)

西武多摩川線 多磨駅から徒歩約 5 分
京王線 飛田給駅から京王バス
東京外大東停留所 下車徒歩 0 分 (バス所用時間約 6 分)
東京外国語大学前停留所 下車徒歩 0 分 (バス所用時間約 10 分)
飛田給駅から徒歩約 20 分

※自動車による通学はできません。

【東京農工大学】

東京農工大学学務課教育支援室 (TEL:042-367-5953)

① 農学部 (府中キャンパス) 〒183-8509 東京都府中市幸町 3-5-8

JR 中央線 国分寺駅南口から府中駅行きバス約 12 分 晴見町下車
京王線 府中駅北口から国分寺駅行きバス約 7 分 晴見町下車
JR 武蔵野線 北府中駅から徒歩約 12 分

② 工学部 (小金井キャンパス) 〒184-8588 東京都小金井市中町 2-24-16

JR 中央線 東小金井駅南口から徒歩約 8 分
JR 中央線 武蔵小金井駅南口から徒歩約 13 分

【電気通信大学】

〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘 1-5-1

電気通信大学教務課学域教務係 (TEL 042-443-5076・5077)

京王線調布駅北口下車徒歩 5 分

※自動車・オートバイによる通学はできません。

令和4年度 西東京三大学連携事業 英語化科目シラバス

番号	開講大学名	科目名	担当 教員	開講 学期	曜日・ 時限等	ページ
1	東京外国語大学	Japan in International Organizations	イスマイロ フ・ムロド	夏	集中	1
2	東京外国語大学	Evolution of Japan's Diplomacy in Eurasia	ダダバエフ・ ティムール	夏	集中	4
3	東京外国語大学	Exploring Mental Health Topics through Interactive Group Work	奥山 ルシ ンダ	夏	集中	13
4	東京外国語大学	Japanese Language Variation and Change	ロング・ダニ エル	夏	集中	16
5	東京外国語大学	Speech Communication	岡田 昭人	秋	毎週	19
6	東京外国語大学	Introduction to Tourism Management	メルヴィン・ ジョン	夏	集中	22
7	東京外国語大学	Dynamic Asia: Topics in Peace and Conflict Studies from Diverse Perspectives	福田 彩	夏	集中	26
8	東京外国語大学	Japanese Social Problems	堀口 佐知子	夏	集中	31
9	東京外国語大学	Topics in Modern Japanese History	木村 正美	秋	毎週	35
10	東京外国語大学	Social History, Literature, Philosophy in the Post War Period	友常 勉	秋	毎週	40
11	東京農工大学	Global Communication	堀切 友紀子	夏	集中	43
12	東京農工大学	Advanced Biology	古谷 哲也 安村 友紀	4学期	集中	46
13	東京農工大学	Perspective of the Humanities and Social Science on "Kyosei Society"	吉田 央 他	後期	集中	50
14	東京農工大学	Water Resources Management	加藤 亮	3学期	集中	54

15	東京農工大学	Soil and Water	斎藤 広隆	夏	集中	56
16	東京農工大学	The Study on Population Affairs in Developing Societies	轟 海松	夏	集中	58
17	東京農工大学	Forest Resources and Biomass	佐藤 敬一 安藤 恵介	夏	集中	61
18	東京農工大学	Agro- & Eco-Informatics	辰己 賢一 福田 信二	3学期	集中	64
19	東京農工大学	Communicating Science	安村 友紀	冬	集中	66
20	東京農工大学	What is a Wave?	伊藤 輝将	夏	集中	70
21	東京農工大学	Engineering for Sustainable Society	野間 竜男	2学期	集中	73
22	電気通信大学	Special Lecture on Informatics and Engineering A (Fundamentals of Algorithms)	小林 聡	夏	集中	76
23	電気通信大学	Special Lecture on Informatics and Engineering A (Current Topics in Emerging Multi-interdisciplinary Engineering A)	石上 嘉康 他	夏	集中	79
24	電気通信大学	Special Lecture on Informatics and Engineering A (Current Topics in Fundamental Science and Engineering B)	庄司 暁	夏	集中	82
25	電気通信大学	Special Lecture on Informatics and Engineering A (Introduction to Physics Laboratory)	未定	夏	集中	85
26	電気通信大学	Special Lecture on Informatics and Engineering A (Introduction to Chemistry Laboratory)	小林 義男	夏	集中	88
27	電気通信大学	Experimental Electronics Laboratory	岸本	後	毎週	92
28	電気通信大学	UEC Academic Skills I (Computer Literacy)	Choo Cheow Keong	後	毎週	95

29	電気通信大学	UEC Academic Skills II (Information Literacy and Research)	Choo Cheow Keong	後	毎週	98
30	電気通信大学	UEC Academic Skills III (Publishing Literacy and Research)	Choo Cheow Keong	後	毎週	101

令和4年度 3 大学英語化科目 シラバス登録フォーマット

授業科目名	科目名：日本の現在を知る 1 授業題目：日本と国際機関		
英文授業科目名	Subject Title：Aspects of Contemporary Japan 1 Course Title：Japan in International Organizations		
開講年度	2022	開講年次	1, 2, 3, 4
開講学期、日にち、時限	夏学期集中 Summer 9/5,6,7 1-5 限 1-5 periods (8:30-17:30)	開講場所	オンライン
授業の方法	講義 Lecture	単位数	2
科目区分	世界教養プログラム Global Liberal Arts Subjects		
開講学科・専攻	n/a		
担当教員名	イスマイロフ・ムロド ISMAILOV, Murod		
居室	東京外国語大学研究講義棟 4 階 412 室 GLIP デスク		
公開 E-Mail	n/a		
授業関連 Web ページ	http://www.tufs.ac.jp/student/lesson_course/program/glip/		

講義情報

主題および 達成目標	この授業では、日本の外交政策が、さまざまな国際機関での活動において地球的規模で与える影響とその範囲について理解することを目的とする。 The goal of this course is to help students understand the scope and impact of Japan's foreign policy on a global level as seen through its involvement in the activities of various international organisations.
前もって履修 しておくべき科目	n/a
前もって履修しておく ことが望ましい科目	n/a
教科書等	教科書 1 ISBN: 1-107-61261-7 書名: International organizations : politics, law, practice 著者名: Ian Hurd 出版社: Cambridge University Press 出版年: 2014 教科書 2 書名: Diplomatic Bluebook of Japan's Foreign Policy (2020)

	<p>著者名: MFA of Japan 出版社: MFA of Japan 出版年: 2020 備考: PDF available online</p> <p>教科書 3 ISBN: 9781138182103 書名: Routledge handbook of Japanese foreign policy 著者名: edited by Mary M. McCarthy 出版社: Routledge 出版年: 2018</p>
<p>授業内容とその進め方</p>	<p>この授業では、国際機関について検討するために重要な4つの側面である(1) 理論、(2) 基本概念、(3) 重要な論点、(4) 将来の課題、について紹介する。これら4つの側面を現実の場面に即したシミュレーション、集中的なグループ活動、分析ワークショップなどのインタラクティブ モジュールを通して学ぶ。</p> <p>第1回 コースの概要 第2回 現代日本の外交政策の重要な柱 第3回 国際機関 (IO) : 歴史的進化 第4回 第二次世界大戦以降の IO 第5回 日本と IO : 定義、機能、役割 第6回 現代日本の外交政策における IO の役割 第7回 政治的 IO における日本 (国連を含む) 第8回 経済的 IO における日本 第9回 社会的およびその他の IO における日本 第10回 日本の状況 : 地域主義 vs 普遍主義 第11回 シミュレーション #1 : 日本と UNSC 第12回 シミュレーション #2 : 日本と気候交渉 第13回 シミュレーション #3 : 日本と人道的危機 第14回、第15回 シミュレーション : 国連のモデル</p> <p>This course will introduce 4 crucial aspects in the analysis of international organisations: (1) Theories, (2) Concepts, (3) Key Issues, (4) Future Challenges. All four aspects will be studied through interactive modules which will include real-life simulations, intensive team-work, analytic workshops.</p> <p>1: Introduction to the course; 2: Key pillars of Japan's contemporary foreign policy; 3: International organisations (IO): historical evolution; 4: Post-Second World War IOs; 5: Japan & IOs: definitions, functions and roles; 6: Role of IOs in Japan's contemporary foreign policy; 7: Japan in Political IOs (incl. UN);</p>

	<p>8: Japan in Economic IOs; 9: Japan in Social and Other IOs; 10: Japan's Position: regionalism versus universalism. 11: Simulation #1: Japan and UNSC; 12: Simulation #2: Japan and Climate Talks; 13: Simulation #3: Japan and Humanitarian Crises; 14: Model United Nations (simulation) 15: Model United Nations (simulation)</p>
<p>授業時間外の学習 (予習・復習等)</p>	<p>1) このクラスは入門レベルであり、政治学の経験がない学生も参加できる。東京外国語大学の提携大学の学生も大歓迎。 2) チームやクラスメートとの積極的な交流を期待する。 3) 出席を確認する。 4) COVID-19 のパンデミック状況によっては、このコースは全てオンラインで行われる場合がある（50%のライブオンラインクラスと 50%のオンデマンド講義形式）。 5) 教員が選択した章のコピーを提供するので、ここに記載されている教科書の購入は不要。詳細については初回の授業で発表する。</p> <p>1) The course is introductory. Students with no prior background in political studies are welcome to join. Students from 'TUFS' partner universities are welcome too. 2) Expect active interaction with your team and classmates. 3) Attendance will be checked. 4) Depending on the COVID-19 pandemic situation, this course maybe held fully online (50% live online classes and 50% on-demand lecture format). 5) Please, DO NOT buy any of the mentioned textbooks beforehand. Your instructor will provide copies of selected chapters. Details will be announced during the first session.</p>
<p>成績評価方法 および評価基準 (最低達成基準を含む)</p>	<p>個々のミニプロジェクト・30% グループ活動・30% クラス内課題および宿題・20% 最終レポート課題・20%</p> <p>Individual mini-projects - 30 % Team-based activities - 30 % In-class and home assignments - 20% Final written assignment - 20%</p>
<p>オフィスアワー: 授業相談</p>	<p>glip@tufs.ac.jp</p>
<p>学生へのメッセージ</p>	<p>n/a</p>
<p>その他</p>	<p>n/a</p>
<p>キーワード</p>	<p>日本、日本の外交政策、国際機関 Japan, Japanese foreign policy, international organisations</p>

令和4年度 3 大学英語化科目 シラバス登録フォーマット

授業科目名	科目名：日本の現在を知る 1 授業題目：ユーラシアにおける日本外交政策の現状と課題		
英文授業科目名	Subject Title：Aspects of Contemporary Japan 1 Course Title：Evolution of Japanese Diplomacy in Eurasia		
開講年度	2022	開講年次	1, 2, 3, 4
開講学期、日にち、時限	夏学期集中 Summer 8/1, 2, 3, 4, 5 → 7/25, 26, 27, 28, 29 1-3 限 1-3 periods (8:30-14:10)	開講場所	1, 2 限: オンライン 3 限: オンデマンド
授業の方法	講義 Lecture	単位数	2
科目区分	世界教養プログラム Global Liberal Arts Subjects		
開講学科・専攻	n/a		
担当教員名	ダダバエフ・ティムール DADABAEV Timur		
居室	東京外国語大学研究講義棟 4 階 412 室 GLIP デスク		
公開 E-Mail	n/a		
授業関連 Web ページ	http://www.tufs.ac.jp/student/lesson_course/program/glip/		

講義情報

主題および 達成目標	<p>本授業では、ユーラシア地域として概念化された旧ソビエト連邦諸国に向けた日本の外交政策の展開に焦点を当てる。本授業は、日本の外交政策におけるユーラシアの概念化における課題を概説することから始まる。次に、日本の外交政策の進展と、ロシア、コーカサス、中央アジアに関して日本が長年にわたって行ってきたイニシアチブについて説明を行う。そして、これらの国々の日本との協力における安全保障関連、政治的、経済的側面とそれらの関係を特徴付ける要因について考察する。</p> <p>This course focuses on the evolution of the Japanese foreign policy towards the states of the former Soviet Union, conceptualized as Eurasian region. The course begins by outlining general problems in the conceptualization of Eurasia in Japan's foreign policy. Secondly, it details the evolution of Japan's foreign policy and the initiatives the country has undertaken over the years in respect of Russia, Caucasus and Central Asia. And thirdly, it provides in-sights into security-related, political, and economic aspects of co-operation between these states and Japan and the factors which characterize these relations.</p>
前もって履修 しておくべき科目	n/a

<p>前もって履修しておくことが望ましい科目</p>	<p>n/a</p>
<p>教科書等</p>	<p>教科書 1 ISBN 9781137492364 書名 Japan in Central Asia : strategies, initiatives, and neighboring powers 著者名 Timur Dadabaev 出版社 Palgrave Macmillan 出版年 2016</p> <p>教科書 2 ISBN 9784130362528 書名 中央アジアの国際関係 = International relations in Central Asia 著者名 ティムール・ダダバエフ著 出版社 東京大学出版会 出版年 2014</p> <p>教科書 3 ISBN 9780367206734 書名 Transcontinental Silk Road strategies : comparing China, Japan and South Korea in Uzbekistan 著者名 Timur Dadabaev 出版社 Routledge 出版年 2019</p>
<p>授業内容とその進め方</p>	<p>開講形式と個別指導 本授業では、9回の講義、1回のディスカッション、4回の学生プレゼンテーション、2つのエッセイ課題、および1回の管理されたエッセイライティング演習で構成される。学生が授業中のディスカッションで建設的に貢献できるように、議論の背景について追加の情報を収集し、講義中や議論中に積極的に参加し、プレゼンテーションを行うことが求められる。エッセイの論題は、授業中に提供される。</p> <p>第1回 本授業は、日本の外交政策におけるユーラシアの概念化における一般的な問題の概要から始まる。日本の外交政策の進展と、中央アジアに関して日本が長年にわたって行ってきたイニシアチブについて詳しく説明する。中央アジア諸国と日本の協力の安全保障関連、政治的、経済的側面と、これらの関係の特徴付ける要因についての洞察を提供する。</p> <p>第2回 日本のユーラシア諸国との関係の歴史 この講義の目的は、日本の外交政策が概して理想主義的立場と実用的立場の間に捕らえられていることを実証することである。日本の外交政策の専門家やアナリストは、1980年代の終わりから、アジアにおける日本の政策はイデオロギー主導の戦略から現実主義主導の実用主義に移行したと示唆している。その結果、ユーラシアにおける日本の政策は、ユーラシア地域では適切に理解されておらず、費用対効果の観点から日本国民に説</p>

明することが難しいという意見と政策が混在している。

第3回 中央アジアにおける日本のODA援助の役割と立場 前回の講義でのこのテーマは、1950年代の終わりにアジア諸国に、そして1990年代初頭から中央アジア諸国に日本が提供した政府開発援助のテーマに関連している。この授業では、最大のODA援助提供者としての日本の国際的地位が、自立の手始めとして独立した中央アジア諸国にかなりの量の援助を提供するように導いた方法に焦点を当てる。このような日本の中央アジア諸国への支援は不可欠であり、高く評価されている一方で、この授業では、日本のイニシアチブは非常に重要であるが、最終的な目標を達成できない場合にも批判的に取り組むことを試みる。そうすることで、この授業は、日本と中央アジア諸国のカウンターパートによる真の意図、努力、および財政投資が必ずしも望ましい結果に結びつかない状況を回避するために注意を払う必要がある特定の要因を強調することを目的としている。

第4回 社会的調査を通じた中央アジア諸国における日本人の認識 この授業は、この地域へのより積極的な日本人の関与に対する中央アジアの一般市民からの期待を浮き彫りにする。このことを実証するために、アジアバロメーターの2005年の社会的調査の結果は、2015年に日本の外務省によって中央アジア諸国で実施された同様の社会的調査と対比されている。

第5回 社会的調査と日本の立場についての双方向ディスカッション この授業では、それまでの授業で提供されたデータに焦点を当て、データを理解して解釈する必要がある方法について、学生とのディスカッションを行う。

第6回 一村一品運動と中央アジアでの応用 この授業では、日本が地域社会（一村一品運動計画の実例を挙げて）と地域の専門家協会に提供する支援に焦点を当てる。コミュニティレベルでの能力開発につながるプログラムと地域の草根戦略を実行する。この授業が伝える主なメッセージは、中央アジアに弱い中央政府があり、地域コミュニティレベルは、あらゆる居住者に共通の居住者を団結させ、明確に定義され、日常生活の目標に密接に関連している数少ない代替手段の1つであるということである。さらに、キルギスタンのような中央アジア社会は、環境危機や経済的短所など、考えられるあらゆる悪事に直面しているが、これらの問題は、国民の不満を局所化し、住宅コミュニティや農業生産者、水利用者または他の共同体を結びつけるような小さなコミュニティ内で国民の同意を得ることがなければ対処できない。

第7回 日本の外交政策と水利用者への支援 このような大きな期待に応えるかのように、日本は中央アジアで、一般市民への働きかけと一般市民レベルでの能力構築の支援を目的とした2つのプロジェクトを実施した。水利用者への支援によるこの日本の関与に関する講義は、ウズベキスタンで実施された日本による水利用者協会支援計画について詳しく説明しながら、一村一品運動計画に論理的に関連している。このことは、中央アジアの水資源の利用可能性に関する現在の状況が不均衡であり、一部の国が他の国よりも不利な状況にあることを示している。この不均衡を実証するために、地域諸国の2つのグループ（過剰な水供給のある上流国と水不足のある中流および下流諸国）間のいくつかのレベルの格差について説明する。この地域で効果的な水管理メカニズムを構築する上での大きな問題は、協力計画方法に関する関係者間の認識の大幅な違いであることが示唆されている。地域の水管理に関する選択された取り決めと合意を分析した後、水関連の問題に関する本格的で建設的な地域協力を妨げてきた制度的枠組みの弱点に注意

が向けられる。最後に、日本のウズベキスタンへの関与に代表されるように、ドナーコミュニティと各国レベルの両方で、水不足問題の深刻さを緩和するために何ができるかを提案する努力がなされている。特に、ウズベキスタンの水利用者協会の事例が事例研究として選ばれている。このような選択の理由は2層に分かれている。ウズベキスタンは農業区域が広大であるため、この地域で最大の水資源消費国である。水損失の削減と水利用効率の向上は、農業区域を改革し、水消費倫理を改善する準備ができていた政府の最も重要な任務の1つである。さらに、この事例は、「統合水資源管理(IWRM)」プログラムを通じた日本の支援の事例に例示されているように、特に強力な水利用者協会の構築支援に関連する側面によってドナーコミュニティのために地域レベルで地域問題に取り組むことの特殊性を示している。

第8回 中央アジアへの日本の関与とその「その他」 このような日本による中央アジアでの活動について詳しく説明した後、授業の焦点は、中央アジア地域での日本の「その他」の実例に移る。つまり、この授業では、日本に対する中国の関与からの教訓を抽出するために、日本の力との比較として中国の関与を表現し分析する。この授業では、上海協力機構(SCO)に対する中央アジア諸国の認識を確認し、中国に対するSCO内での協力に従事する際の中央アジア諸国の意欲と懸念を概念化する。SCOは、日本の中央アジア+日本のイニシアチブとその「その他」に匹敵する組織としてこの巻に位置する。この授業が提供するメッセージは、中央アジア諸国の指導者と一般市民の大多数にとって、SCO内の中国は、非植民地化しているがますます支配的な機能を備えた役割を代表しているということである。中央アジア地域における中国のこれらの認識は、中央アジアへの中国の関与が、SCOが機能主義を超えてより広範なSCOアイデンティティの創造に向けて動く可能性に逆説的かつ矛盾した影響を与える方法を解明している。

第9回 日本は中央アジアにて他のアジア権力と比較可能か？ この授業では、中央アジア地域への関与におけるこの二大アジア経済大国を直接比較することにより、日本が中国のようなアジアの大国を育成することとどのように比較するかという問題に焦点を当てる。この授業では、政治協力、経済的相互作用、安全保障、国民の認識、相互の関連性など、各国がその地域に帰属する役割に基づいて、新たに出現した中央アジア(CA)諸国に関する中国と日本の外交政策を比較および分析する。それらはいくつかの点で、中央アジアにおける中国と日本の利益が類似していることを示しており、鉱物資源と政治的安定に焦点を当てていることからわかる。しかし、二国のアプローチと戦略は異なる。中国は実用的なアプローチに従う傾向があるが、日本の政策は理想主義的視点と実用的視点が混在している。

第10回～第14回 実践演習 学生はグループに分かれ、グループ毎に中央ユーラシアでの日本の支援の事例研究あるいは概念的な主題のいずれかを取り上げる。4回の授業にて、グループは調査結果を提示し、それらの問題と主題/事例について話し合う。

Course Delivery & Tutorials

This course consists of nine lectures, one round table discussion, four classes of student presentations, two essay assignments and one administered essay writing exercise. It is important that students prepare for all the classes so

that they will be able to contribute constructively during in-class discussions. This means doing background readings or research on the topic for discussion and preparing presentations when asked. The essay questions will be supplied during the lecture classes.

1: Class 1 Introduction This course begins with outlining general problems in the conceptualization of Eurasia in Japan's foreign policy. It details the evolution of Japan's foreign policy and the initiatives the country has undertaken over the years in respect of Central Asia. It provides insights into security-related, political, and economic aspects of co-operation between Central Asian states and Japan and the factors which characterize these relations.

2: Class 2 History of Japanese relations with Eurasian states This lecture will aim to demonstrate that Japanese foreign policy is generally trapped between idealist and pragmatic positions. Japanese foreign policy watchers and analysts suggest that beginning at the end of the 1980s, Japanese policy in Asia shifted from an idealist-driven strategy toward realist-driven pragmatism. As a result, Japan's policy in Eurasia is a hybrid of ideas and policies that are not properly understood in Eurasian region and are difficult to explain to the Japanese public from a cost-benefit perspective.

3: Class 3 The Role and Place of the Japanese ODA assistance in its relations in Central Asia This theme of the previous lecture connects to the theme of Official Development Assistance provided by Japan to Asian countries from the end of 1950s and to the countries of CA from early 1990s. This class will focus on the how international standing of Japan as the biggest ODA assistance provider led it to extend a significant amount of assistance to newly independent states of CA at the outset of their independence. While acknowledging such Japanese assistance to CA is indispensable and highly appreciated, this class will also attempt to engage critically with some cases where Japanese initiatives, although very important, fall short of their ultimate goals. By doing so, this class aims to emphasize certain factors which need to be given careful attention in order to avoid the situation when genuine intentions, efforts and financial investments by the Japanese and CA counterparts do not necessarily translate into desired outcomes.

4: Class 4 Japanese perception in countries of Central Asia through social polling This class highlights the expectations from general public in CA for a more active Japanese involvement in this region. To demonstrate this, the social polling outcomes of the Asia Barometer for 2005 are contrasted to similar social polling conducted in CA in 2015 by the Japanese Ministry of Foreign Affairs.

5: Class 5 Interactive discussion of the social polling and the Japanese position This class will focus on the data provided in the previous class and engage into a round-table discussion with the students of the way the data needs to be understood and interpreted.

6: Class 6 One Village One Product and its application in Central Asia This class will focus on the support extended by Japan to local communities (exemplified by OVOP scheme) and local professional associations which signify the double-layered focus of the Japanese initiatives which aim to support both governmentally-run programs and local grass-roots initiatives leading to capacity building at the community level. The main message that this class delivers is that with weak central governments in place in CA, local community level represents one of a few possible substitutes to unite residents for common to all residents, clearly defined and tightly connected to their everyday life goals. In addition, while CA societies like that of Kyrgyzstan face all possible evils such as environmental hazards and economic shortcomings, these problems cannot be addressed without localizing public dissatisfaction and creating public consent within the smaller communities like residential communities or those uniting agricultural producers, water users or other communal associations.

7: Class 7 Japanese foreign policy and the support to the Water Users' Association As if to respond to such immense public expectation, Japan has implemented two projects in CA which aimed to reach out to the general public and support capacity building at the level of ordinary people as demonstrated by the support to the Water Users' Association This lecture on the Japanese engagement logically connects to the OVOP scheme while detailing on the Water User's Associations support scheme by Japan implemented in Uzbekistan. It demonstrates that the present situation concerning the availability of water resources in CA is unbalanced, with some states finding themselves in a less favorable situation than others are. To demonstrate this imbalance, several levels of disparities between two groups of regional states – upstream states with excessive supplies of water, and mid- and downstream states with water shortages – are discussed. It is suggested that the major problem blocking creating an effective water-management mechanism in the region is the drastic differences in perception among the involved parties of how cooperation should be planned. After analyzing the selected arrangements and agreements on water management in the region, attention is drawn to the weaknesses of institutional frameworks that have prevented fully fledged, constructive regional cooperation over water-related issues. Finally, an effort is made to suggest what can be done both by the donor community, as exemplified by the Japanese engagement in Uzbekistan, and at the individual country level to alleviate the seriousness of the water deficiency problem. In particular, the case of Water Users' Associations in Uzbekistan is chosen as the case study. The reason for such a selection is two layered: Uzbekistan is the largest consumer of water resources in the region because of its large agricultural sector. Reduction of water losses and increasing water usage efficiency is one of the most important tasks of a government prepared to reform its agricultural sector and improve water consumption ethics. Additionally, this case demonstrates the peculiarities of

	<p>addressing regional problems at the local level for the donor community, as exemplified by the case of Japanese assistance through its “Integrated Water Resources Management: IWRM” program and, in particular, by an aspect related to assistance in building strong Water Users Associations.</p> <p>8: Class 8 Japan’s involvement in Central Asia and its “Other” After detailing on such activities by Japan in CA, the focus of the class moves towards an example of Japan’s “other” in CA region. In other words, this class depicts and analyzes engagements of China as a comparative to Japan power in order to distill the lessons from Chinese engagements for Japan. This class reviews the perceptions of the CA states towards the Shanghai Cooperation Organization (SCO) and conceptualizes the CA states’ motivations and concerns in engaging in cooperation within the SCO vis-a-vis China. SCO is placed in this volume as organization comparable to Japanese Central Asia plus Japan initiative and its “other”. The message that this class aims to deliver is that, for the majority of the CA leadership and public, China within the SCO represents actor with decolonizing but increasingly dominating features. These perceptions of China in the CA region elucidate the ways in which China’s involvement in Central Asia has a paradoxical and contradictory impact on the potential for the SCO to move beyond functionalism and towards the creation of a broader SCO identity.</p> <p>9: Class 9 Can Japan be compared to other Asian powers in Central Asia? The class focuses on the issue of how Japan compares to such raising Asian powers like China by directly comparing these two Asian economic powers in their engagement in CA region. This class compares and analyses China’s and Japan’s foreign policies with regard to the newly emerging Central Asian (CA) states based on the role that each country attributes to that region, including political cooperation, economic interaction, security, public perception and mutual relevance. It demonstrates that in some respects, the interests of China and Japan in CA are similar, as exemplified by their focus on mineral resources and political stability. However, these countries differ in their approaches and strategies there: China is inclined to follow pragmatic approaches, whereas Japan’s policy is a mixture of idealistic and pragmatic perspectives.</p> <p>10 to Class 14: Practical exercise Students will be divided into several groups and each group will pick up either a case study of the Japanese assistance in Central Eurasia or a conceptual topic. In each of the four classes, the groups will present their findings and engage into discussion of these issues and topics/cases.</p> <p>15: Class 15 Administered Essay writing This class will consist of the brief discussion of the topics and issues in the Japanese approaches towards Central Eurasia followed by the administered essay writing.</p>
授業時間外の学習 (予習・復習等)	なし None

**成績評価方法
および評価基準
(最低達成基準を含む)**

評価

筆記課題はすべて、担当教員の電子メールアドレスへ提出すること。

エッセイ 1 (25%) : 1,500-2,000 語

この課題では、国際関係へのコア理論的アプローチの学生の理解、経験的データにこれらのアプローチを批判的に適用する能力、独立した研究を行う方法の理解、および学術エッセイを準備および構築する能力を評価する。特定の主題と論文の構造に関する指示については、授業内に配布する。

エッセイ 2 (30%) : 1,500-2,000 語

この課題では、クラスで話し合う資料の観点から、国際関係の問題に対処する具体的な質問に対応することを学生に求める。エッセイは、この授業で指定された書籍以外での研究は必要とせず、国際的な出来事のニュースの信頼できる情報源である。エッセイは、学生が授業で学んだことを自分の特定のトピックを分析する際に使用できるようにするために、学生の考えを奨励する見込みである。

最終管理エッセイ (45%) :

試験期間中、2 時間の筆記試験が行われる。試験の日時と場所は、時間割が利用可能になったときに発表される。

Assessments

All written assignments must be submitted to the e-mail address of instructor.

Essay 1 (25%): 1,500-2,000 words

This assignment will assess students' understanding of the core theoretical approaches to international relations, their ability to critically apply these approaches to empirical data, understanding of how to conduct independent research and ability to prepare and structure an academic essay. The specific topic and the instructions on the structure of the paper will be distributed in the class.

Essay 2 (30%): 1,500-2,000 words

This assignment will ask students to answer specific questions that will deal with some issue in international relations from the perspective of the materials that we will be discussing in class. The essay will require little research outside the books assigned for this class and a reliable source for news of international events. The essay will be designed to encourage students' thoughts in order to get them to use what they have learned in the class in analyzing their own specific topic.

Final Administered Essay (45%):

A two hour written examination will be held during the examination period.

	The date and location of the examination will be announced when the timetable becomes available.
オフィスアワー: 授業相談	glip@tufs.ac.jp
学生へのメッセージ	<p>本授業の一部はオンライン形式で実施され、残りはオンデマンド形式で行われる。</p> <p>This course will be conducted partly as online and partly ON-DEMAND.</p>
その他	n/a
キーワード	<p>国際関係、国際協力、日本の対外政策、日ロ関係、対中央アジア政策の日中韓露比較</p> <p>International Relations, International Cooperation, Japanese Foreign Policy, Russo-Japanese Relations and Comparative perspective on Japanese, Chinese, Korean and Russian policies towards Central Asia</p>

令和4年度 3 大学英語化科目 シラバス登録フォーマット

授業科目名	科目名：国際社会と地域 1 授業題目： インタラクティブ・グループワークを通してメンタルヘルスを学ぶ		
英文授業科目名	Subject Title : Global Society and Local Society 1 Course Title : Exploring Mental Health Topics through Interactive Group Work		
開講年度	2022	開講年次	1, 2, 3, 4
開講学期、日にち、時限	夏学期集中 Summer 8/1, 3, 5、1-5 限 1-5 periods (8:30-17:30)	開講場所	東京外国語大学 研究講義棟 102 室
授業の方法	講義 Lecture	単位数	2
科目区分	世界教養プログラム Global Liberal Arts Subjects		
開講学科・専攻	n/a		
担当教員名	奥山 ルシンダ OKUYAMA, Lucinda		
居室	東京外国語大学研究講義棟 4 階 412 室 GLIP デスク		
公開 E-Mail	n/a		
授業関連 Web ページ	http://www.tufs.ac.jp/student/lesson_course/program/glip/		

講義情報

主題および 達成目標	<p>この集中講義は、人間の行動に興味のある学生、特にメンタルヘルスに関するトピックに興味をもつ学生を対象としています。</p> <p>メンタルヘルスに関する各トピックを TED-Ed を通して学ぶとともに、他の学生との共同活動によるグループ発表やグループ・ディスカッション等を通して、英語によるコミュニケーション力、表現力および発言力の育成を目指していきます。</p> <p>This course is topic-based, with student-led sessions, group discussions, and class presentations. The lectures are based on TED-Ed content on mental health.</p> <p>This course is designed for students who are interested in human behaviour. If you enjoy learning about mental health topics this course is for you.</p> <p>Through guided discovery students will learn how to:</p> <ul style="list-style-type: none"> • participate in student-led sessions • discuss research in a group setting • present research findings to the class
前もって履修 しておくべき科目	n/a
前もって履修しておく ことが望ましい科目	n/a
教科書等	なし、講義資料はクラスで配布します。

	Handouts and reading materials will be provided in class.
授業内容とその進め方	<p>インポスター症候群、OCD、ナルシシズム、PTSD、慢性ストレス、統合失調症について耳にしたことがありますか？世界中の何百万もの人々がこれらの症状を抱えながら生活をしているにもかかわらず、これらの症状はしばしば誤解されています。この集中講義では、これらの症状とその治療法について学びます。TED-Edを試聴し、クイズに答えていくことでメンタルヘルスに関する基礎知識を養っていきます。また、他の学生との共同活動のもと、クラス発表を行うことにより、各トピックにおける学習を深めていきます。</p> <p>第1回 講義の概要と説明 第2回 インポスター症候群 第3回 インポスター症候群に関するグループ・ワーク&グループ・プレゼンテーション 第4回 ダニングクルーガー効果 第5回 ダニングクルーガー効果に関するグループ・ワーク&グループ・プレゼンテーション 第6回 依存症 第7回 依存症に関するグループ・ワーク&グループ・プレゼンテーション 第8回 強迫性障害 第9回 強迫性障害に関するグループ・ワーク&グループ・プレゼンテーション 第10回 ナルシシズム 第11回 ナルシシズムに関するグループ・ワーク&グループ・プレゼンテーション 第12回 慢性ストレスと脳 第13回 慢性ストレスと脳に関するグループ・ワーク&グループ・プレゼンテーション 第14回 心的外傷後ストレス障害 第15回 まとめ&英語学習におけるリフレクション ※最終試験はありません。</p> <p>Have you ever heard of imposter syndrome, OCD, narcissism, PTSD, chronic stress or schizophrenia? These conditions impact millions of people globally, yet are often misunderstood. In this course we will explore the symptoms and treatments of these conditions. We will do this through watching short TED-Ed animations that summarise each condition and complete short exercises to test our knowledge. Additionally, students will work together and lead the class in order to deeply engage with each topic.</p> <p>1: Introduction to the course and course logistics 2: Imposter Syndrome 3: Student-led session on Imposter Syndrome 4: The Dunning Kruger Effect 5: Student-led session on Dunning Kruger Effect 6: Addiction 7: Student-led session on Addiction</p>

	<p>8: Obsessive Compulsive Disorder 9: Student-led session on Obsessive Compulsive Disorder 10: Narcissism 11: Student-led session on Narcissism 12: Chronic Stress and the Brain 13: Student-led session on Chronic Stress and the Brain 14: Post-Traumatic Stress Disorder 15: Course conclusion, review and reflection *No final exam.</p>
授業時間外の学習 (予習・復習等)	<p>受講生は講義への準備として、課題・宿題をこなすことが求められ、クラスでのグループ・プレゼンテーション用にノートパソコン又はタブレット等が必要となります。この講義の使用言語は英語のみです。</p> <p>Students are expected to do homework assignments before coming to class and will need a laptop/tablet in class for student-led sessions. This course will be taught in English only</p>
成績評価方法 および評価基準 (最低達成基準を含む)	<p>・クラスへの参加度と宿題 30% ・グループ・プレゼンテーション (6 回分) 70%</p> <p>•Class participation and homework 30% •Student-led group sessions (6 group presentations)70%</p>
オフィスアワー: 授業相談	<p>glip@tufts.ac.jp</p>
学生へのメッセージ	<p>この集中講義では、内容の濃いグループ・ディスカッションをおこなえるように、ひとクラス 30 人以内と学生人数を制限しています。抽選方式 (希望学生数が 30 名以上の場合)</p> <p>宿題はオンライン・プラットフォームに投稿され、授業にてディスカッションを行います。</p> <p>Due to the nature of this course, class size is limited to approximately 30 students to allow quality group discussions. Students will be selected based on a lottery system.</p> <p>Homework will be posted online via an online platform and discussed in class.</p>
その他	<p>n/a</p>
キーワード	<p>心理学、メンタルヘルス、人間行動</p> <p>Psychology, Mental Health, Human Behaviour</p>

令和4年度 3 大学英語化科目 シラバス登録フォーマット

授業科目名	科目名：日本の言語を知る 1 授業題目：日本語のバリエーションと変化		
英文授業科目名	Subject Title：Aspects of the Japanese Language 1 Course Title：Japanese Language Variation and Change		
開講年度	2022	開講年次	1, 2, 3, 4
開講学期、日にち、時限	夏学期集中 Summer 7/25、26、27、28、29、2, 3, 4 限 2, 3, 4 periods (10:10-15:50)	開講場所	東京外国語大学 研究講義棟105室
授業の方法	講義 Lecture	単位数	2
科目区分	世界教養プログラム Global Liberal Arts Subjects		
開講学科・専攻	n/a		
担当教員名	ロング・ダニエル LONG, Daniel		
居室	東京外国語大学研究講義棟 4 階 412 室 GLIP デスク		
公開 E-Mail	n/a		
授業関連 Web ページ	http://www.tufs.ac.jp/student/lesson_course/program/glip/		

講義情報

主題および 達成目標	この授業を積極的かつ問題なく受講した学生は、言語の変化と日本語の変化についての知識を得るだけでなく、日本語の変化と方言の変化の特徴を議論し説明するために必要な英語のスキルが身につく。 Those who actively and successfully participate in this class will gain knowledge about language variation and change in the Japanese language, as well as the English skills necessary to discuss and explain characteristics of Japanese language change and dialectal variation.
前もって履修 しておくべき科目	n/a
前もって履修しておく ことが望ましい科目	n/a
教科書等	なし
授業内容と その進め方	以下のトピックに焦点を当てる。日本語の方言はどのように異なるか？なぜ方言のバリエーションが存在するのか？本土の方言と沖縄の言語の種類との関係は何か？方言の収集と分析のためのテクニックも学ぶ。本科目は1週間の集中コースであるため、講義、グループワークおよびそのワークについてのディスカッション

	<p>ョンを交互に行う。</p> <p>第1回 日本語の方言区分とその背後にある方言の同義語 第2回 日本語方言と方言学、形態学的プロセスとしての自動詞と他動詞のペアを分析するグループワーク 第3回 方言の地理的分布（音声学および音韻論） 第4回 方言の地理的分布（語彙と文法） 第5回 「言語距離」を定量化するツールとしての「スワデシュリスト」 第6回 沖縄のスワデシュリストを編集するグループワーク 第7回 本土の日本語の多様性と琉球語の多様性 第8回 琉球の言語の種類（沖縄と奄美）、音韻、文法、語彙のバリエーション 第9回 方言のつながり、コイネイゼーション、コイネー言語の種類 第10回 近代（20世紀）および現在（21世紀）の日本語の現在進行中の変化。「New Dialect」と「Neo Dialect」の概念 第11回 東京弁、関東弁、標準日本語および「一般的な日本語」 第12回 「義務表現」の文法的なバリエーションと変化。内部および外部の変化、標準化と類推的变化 第13回 言語環境の方言 第14回 議論するために必要な主要概念と言語用語についてのレビューを行う *本科目は1週間の集中講義であるため、第14回では、議論するために必要な主要概念と言語用語についてのレビューを行う。 第15回 最終筆記試験</p> <p>Topics to cover focus on the following: In what ways do Japanese dialects differ? Why does dialectal variation exist? What is the relationship between mainland Japan dialects and the language varieties of Okinawa? We will also learn techniques for the collection and analysis of dialects. As this is a week long intensive course, we will alternate between lectures, group work and discussions of that work.</p> <p>1: The dialect divisions of Japanese and the dialect isoglosses behind them 2: Japanese dialects and dialectology, group work analyzing intransitive and transitive verbs pairs as a kind of morphological process 3: Geographical distribution of dialects (phonetics and phonology) 4: Geographical distribution of dialects (lexicon and grammar) 5: The "Swadesh List" as a tool for quantifying "linguistic distance" 6: Group work compiling an Okinawan Swadesh List 7: Mainland Japanese varieties and Ryukyuan Varieties 8: Language varieties of Ryukyu (Okinawa and Amami), phonological, grammatical and lexical variation 9: Dialect contact, koineisation and koiné language varieties 10: Recent (20th century) and current (21st century) ongoing change in Japanese; the concepts of "New Dialect" and "Neo Dialect" 11: Tokyo dialect, Kanto dialects, Standard Japanese and "Common</p>
--	---

	<p>Japanese",</p> <p>12: Grammatical variation and change in "obligation expressions"; internal and external change; Standardization and Analogical Change</p> <p>13: Dialect in the linguistic landscape</p> <p>14: Review of the week's key concepts and linguistic terminology</p> <p>*As this is a one-week intensive course, the 14th period will be a review of the weeks key concepts and linguistic terminology necessary for discussing them.</p> <p>15: The 15th period will be a final written exam.</p>
<p>授業時間外の学習 (予習・復習等)</p>	<p>本科目は 1 週間の集中講義であるため、復習や翌日の準備の時間はほとんど無く、すべての授業に参加し、理解できない場合は質問をし、積極的にディスカッションに参加することが重要である。</p> <p>Because this is a week long intensive course, be aware that you will have very little time each to review and prepare for the next day so it will be vital to attend all classes, ask questions when you do not understand, and actively participate in discussions.</p>
<p>成績評価方法 および評価基準 (最低達成基準を含む)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク 40% ・クラスディスカッションの際に英語で質問をし、意見を述べる積極的な参加 20% (20 人以上が履修登録をした場合はコメントシートを使用して行う) ・最終試験 40% <ul style="list-style-type: none"> ・ Group Work 40% ・ Active participation asking questions and expressing opinions in class discussions in English 20% (in the event of an enrollment of more than 20, this will be done using comment sheets) ・ Final exam 40%
<p>オフィスアワー: 授業相談</p>	<p>glip@tufs.ac.jp</p>
<p>学生へのメッセージ</p>	<p>上述のように、授業中のグループ活動やディスカッションに積極的に参加することが、本科目の成績に影響することに留意すること。</p> <p>As stated above, be aware that your active participation in class group activities and class discussions will affect your grade in this class.</p>
<p>その他</p>	<p>n/a</p>
<p>キーワード</p>	<p>日本語弁証法、地理的分布、方言マップ、言語バリエーション、琉球（沖縄）語の種類</p> <p>Japanese dialectology, geographical distribution, dialect maps, language variation, Ryukyuan (Okinawan) language varieties</p>

令和4年度 3 大学英語化科目 シラバス登録フォーマット

授業科目名	科目名：教養としての言語学 2 授業題目：スピーチ・コミュニケーション		
英文授業科目名	Subject Title : Linguistics for Everyone 2 Course Title : Speech Communication		
開講年度	2022	開講年次	1, 2, 3, 4
開講学期、日にち、時限	秋学期 Fall 木曜日 3 限 Thu. 3rd period (12:40-14:10)	開講場所	東京外国語大学 研究講義棟 218 室
授業の方法	講義 Lecture	単位数	2
科目区分	世界教養プログラム Global Liberal Arts Subjects		
開講学科・専攻	n/a		
担当教員名	岡田 昭人 OKADA, Akito		
居室	東京外国語大学研究講義棟 4 階 412 室 GLIP デスク		
公開 E-Mail	n/a		
授業関連 Web ページ	http://www.tufs.ac.jp/student/lesson_course/program/glip/		

講義情報

主題および 達成目標	<p>主題および達成目標: この授業は、学生が母語話者と様々な話題について流暢な文体を自在に使いこなして会話できるようになることを目指す。そのため、学生はあらゆる状況（葬儀、結婚式など）でのスピーチを行う。またプレゼンテーションや日本語で行われる講義を聞きながらノートを取る訓練なども行われる。この授業にはスピーチやディベートを行うことによる計画された文化的背景も取り入れられる。</p> <p>The purpose of this course is designed to teach students to converse fluently with native speakers on a variety of subjects with a full command of speech levels. To achieve this goal, students will make speeches in various situations (funerals, marriage ceremonies, etc.). Advanced training in such skills as oral presentations and note-taking while listening to lectures conducted in Japanese will also be included. In short, this course will include planned culture context through the conduction of speeches and debates.</p>
前もって履修 しておくべき科目	n/a
前もって履修しておく ことが望ましい科目	n/a
教科書等	プリントおよび自宅での学習用の参考文献リストを授業中に配布する。

	Printed materials will be distributed at the lectures along with a list of recommended literature for home reading.
授業内容とその進め方	<p>それぞれの学生は毎週 3 分ほどのスピーチを日本語で行う。スピーチ後に 3 名の日本語母語話者の学生により、コミュニケーション能力を高めるための書面による評価が行われる。</p> <p>第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 友達紹介 第 3 回 選挙スピーチ 第 4 回 選挙スピーチ① 第 5 回 選挙スピーチ② 第 6 回 選挙スピーチ③ 第 7 回 CM 制作 第 8 回 CM 制作① 第 9 回 CM 制作② 第 10 回 CM 制作③ 第 11 回 スピーチ 第 12 回 スピーチ 第 13 回 スピーチ 第 14 回 ALH1 英語でディスカッション 第 15 回 ALH2 CM 制作</p> <p>Each student is required to present a speech in Japanese each week (approximately 3 minutes in length), which will be assessed by a panel consisting of three native Japanese speakers. At the end of each speech the student will be given written suggestions from the panel on how to improve their communication abilities.</p> <p>1: Orientation 2: Introduce your friend (student presentation: each student introduces your class mate) 3: Election Speech (instruction for election speech) 4: Election Speech1 (student presentation: each student makes a campaign speech) 5: Election Speech2 (student presentation: each student makes a campaign speech) 6: Election Speech3 (student presentation: each student makes a campaign speech) 7: Making CM (instruction: how to make CM) 8: Making CM1 (student presentation: each student makes a commercial and show it) 9: Making CM2 (student presentation: each student makes a commercial and show it)</p>

	<p>10: Making CM3 (student presentation: each student makes a commercial and show it)</p> <p>11: Speech without preparation1 (each student makes a speech without preparation.)</p> <p>12: Speech without preparation2 (each student makes a speech without preparation.)</p> <p>13: Speech without preparation3 (each student makes a speech without preparation.)</p> <p>14 ALH1: Discussion in English (between the 6th and 7th)</p> <p>15 ALH2: Making CM (between the 10th and 11th) To improve speech and creativity through AL.</p>
授業時間外の学習 (予習・復習等)	<p>予習・復習を行うこと。 Do pre and after study.</p>
成績評価方法 および評価基準 (最低達成基準を含む)	<p>ALH 20% 毎週のプレゼンテーション 30% ディスカッションへの参加 20% 中間・期末プロジェクト 30%</p> <p>ALH 20% Weekly presentation 30% Discussion participation 20% Mid-term and Final project 30%</p>
オフィスアワー: 授業相談	glip@tufs.ac.jp
学生へのメッセージ	n/a
その他	n/a
キーワード	スピーチ speech

令和4年度 3 大学英語化科目 シラバス登録フォーマット

授業科目名	科目名：国際社会と地域 1 授業題目：観光マネジメント入門		
英文授業科目名	Subject Title : Global Society and Local Society 1 Course Title : Introduction to Tourism Management		
開講年度	2022	開講年次	1, 2, 3, 4
開講学期、日にち、時限	夏学期集中 Summer 7/25, 26, 27, 28, 29、2-4 限 2-4 periods (10:10-15:50)	開講場所	東京外国語大学 研究講義棟 305 室
授業の方法	講義 Lecture	単位数	2
科目区分	世界教養プログラム Global Liberal Arts Subjects		
開講学科・専攻	n/a		
担当教員名	メルヴィン・ジョン MELVIN, John		
居室	東京外国語大学研究講義棟 4 階 412 室 GLIP デスク		
公開 E-Mail	n/a		
授業関連 Web ページ	http://www.tufs.ac.jp/student/lesson_course/program/glip/		

講義情報

主題および 達成目標	<p>この授業を修了した学生は以下が可能となる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.観光セクターの構造と組織、およびさまざまな利害関係者（政府、地域コミュニティ、企業、NGO など）間の相互関係についての説明 2.観光地の自然、構築、文化的資源の持続可能な開発を可能にするプロセスを明らかにすること 3.全世界、国家、特定の地域レベルで旅行と観光の成長を促進する要因を明らかにすること 4.消費者行動の変化と観光業経営者への影響について討論すること 5.テクノロジー、特にソーシャルメディアが観光に与える影響の説明 <p>At the completion of this course, students should be able to:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Describe the structure and organisation of the tourism sector and the interrelationships between the various stakeholders (governments, local communities, companies, NGOs, etc.) 2. Identify processes to enable the sustainable development of a destination's natural, built and cultural resources 3. Identify factors facilitating the growth of travel and tourism at the global, national and local level 4. Discuss changes in consumer behaviour and the implications for tourism managers
---------------	---

	5. Describe the impact of technology, particularly social media, on tourism
前もって履修しておくべき科目	n/a
前もって履修しておくことが望ましい科目	n/a
教科書等	<p>教科書はなく、配布資料およびリーディング課題は授業内で配布されるか、Moodle で入手できる。</p> <p>There is no set textbook. Handouts and reading materials will be distributed in class and/or available on Moodle.</p>
授業内容とその進め方	<p>この授業の目的は、観光についての理解を受講者に提供することである。観光セクターの規模、範囲、組織の概要を把握し、観光が観光地に与えるプラスとマイナスの影響について考察する。さまざまな国際的なケーススタディを通じて、観光地の自然、構築、文化的資源の開発と、それらを持続可能な方法で管理および楽しむ方法について学ぶ。</p> <p>受講者は、特定の観光地での観光関連の問題に焦点を当て、授業中のディスカッションやグループプロジェクトなどの学習機会で話し合いを行う。受講者は入門コースとして、観光の研究に関連する基本的な問題と学説に遭遇する。</p> <p>第1回 授業の内容と進行の概要：観光の重要性と複雑さを理解する 第2回 観光セクターの構造と組織：地方、国内、国際レベルでの観光セクターの構造と組織を探る 第3回 観光客：誰が、何を、どこで、なぜ、どのように：観光客のさまざまな類型を探る。さまざまな動機、意思決定、行動を理解する 第4回 先進国と発展途上国における観光の影響：観光が受入地域、経済、環境にプラスとマイナスの影響をどのように与えるかを探る 第5回 観光—持続可能な開発：より持続可能な方法で観光を管理する方法に関するアプローチについて検討する 第6回 夢と経験を売る—観光マーケティング：進化するマーケティング理論、および観光業などのマーケティングサービスの特定の課題について検討する 第7回 観光とテクノロジー：観光の管理と組織におけるテクノロジーの影響 第8回 観光危機と災害管理：観光の脆弱性および新型コロナウイルス感染を含めた災害に対し観光地がいかに対応できるかについて分析する 第9回 日本の観光：日本の観光の過去、現在、そして未来の発展について検討する 第10回 イベントツーリズム：観光地資源としてのイベントの役割を分析する 第11回 観光地管理の問題点：国際的なケーススタディから観光地管理について分析する 第12回 オーバーツーリズム（観光公害）：オーバーツーリズム（観光公害）の推進要因の検討と Airbnb の分析 第13回 観光とアクセシビリティ（アクセスの可能性）：(i) パラリンピックと障害者および (ii) ソーシャルツーリズム（社会的に不利な立場にある人々の</p>

ためのツーリズム) に関するディスカッションをベースとした演習
 第14回 グループプレゼンテーション: 学生グループプレゼンテーション (トピックは授業中に割り当てられる)
 第15回 試験

The purpose of this course is to provide students with an understanding of tourism. You will gain an overview of the scale, scope and organization of the tourism sector and consider the positive and negative impacts of tourism on destinations. Through a range of international case studies, we will learn about the development of destinations' natural, built and cultural resources and how these can be managed and enjoyed sustainably.

Students will engage in additional learning opportunities such as in-class discussions and a group project, focusing on tourism-related issues at a particular destination. As an introductory course, students will encounter some of the fundamental issues and theories relating to the study of tourism.

- 1: Introduction to the Course Content and Class Format: Understanding the significance and complexity of tourism
- 2: The Structure and Organization of the Tourism Sector: Exploring the structure and organization of the tourism sector at the local, national & international level
- 3: Tourists: Who, What, Where, Why, How: Exploring different typologies of tourists; Understanding different motivations, decision-making & behaviors
- 4: Tourism Impacts in Developed and Developing Countries: Investigating how tourism can impact positively and negatively on host communities, economies & environments
- 5: Tourism - Sustainable Development: Examining approaches on how to manage tourism more sustainably
- 6: Selling Dreams and Experiences - Tourism Marketing: Examining evolving theories of marketing, and the particular challenges of marketing services such as tourism
- 7: Tourism and Technology: The impact of technology on the management and organization of tourism
- 8: Tourism Crisis and Disaster Management: Analyzing the vulnerability of tourism and how destinations can respond to disasters, including coronavirus
- 9: Tourism in Japan: Examining the past, present and future development of tourism in Japan
- 10: Event Tourism: Analyzing the role of events as a destination resource
- 11: Issues in Destination Management: Analyzing destination management from an international case study
- 12: Overtourism: considering the drivers of overtourism, and analysis of Airbnb
- 13: Tourism & Accessibility: Discussion-based exercise on (i) the Paralympics

	& disabled people and (ii) social tourism 14: Group Presentations: Student group presentations (topics will be assigned in class) 15: Examination
授業時間外の学習 (予習・復習等)	学生は、本授業から最大限の成果を得られるように、指定されたすべてのリーディングと宿題を完了することが求められる。 協調と努力を奨励し評価するため、グループプロジェクトは学生ごとに評価される。 Students are expected to complete all the assigned reading and homework to enable them to get the most benefit from the lectures. To encourage and reward cooperation and hard work, the group project is assessed on an individual basis.
成績評価方法 および評価基準 (最低達成基準を含む)	1.授業参加と宿題 (30%) 2.グループプレゼンテーションとレポート (30%) 3.試験 (40%) 1. Class participation & homework (30%) 2. Group presentation and report (30%) 3. Exam (40%)
オフィスアワー: 授業相談	glip@tufts.ac.jp
学生へのメッセージ	n/a
その他	n/a
キーワード	観光、観光マーケティング、観光管理、持続可能性、観光の影響 tourism, tourism marketing, tourism management, sustainability, tourism impacts

令和4年度 3 大学英語化科目 シラバス登録フォーマット

授業科目名	科目名：国際社会と地域1 授業題目：ダイナミック・アジア：多様な観点から平和と紛争を考える		
英文授業科目名	Subject Title：Global Society and Local Society 1 Course Title：Dynamic Asia: Topics in Peace and Conflict Studies from Diverse Perspectives		
開講年度	2022	開講年次	1, 2, 3, 4
開講学期、日にち、時限	夏学期集中 Summer 7月25日:1～5限、26日:2～5限、 27日・28日:3～5限	開講場所	オンライン
授業の方法	講義 Lecture	単位数	2
科目区分	世界教養プログラム Global Liberal Arts Subjects		
開講学科・専攻	n/a		
担当教員名	福田 彩 FUKUDA, Aya		
居室	東京外国語大学研究講義棟4階412室 GLIP デスク		
公開 E-Mail	n/a		
授業関連 Web ページ	http://www.tufs.ac.jp/student/lesson_course/program/glip/		

講義情報

主題および 達成目標	<p>紛争経験国のアジアの大学とオンラインでつながり、自国にいながらにしてアジアの紛争の現実と平和構築・紛争予防の基礎を学ぶ。海外の教員と質疑やディスカッションを行う時間も豊富に設け、英語での討論も経験する。コースの冒頭にて異文化コミュニケーションについても学び、海外との円滑なコミュニケーションを目指す。国境を超えて意見交換し、様々な課題、とりわけ平和と紛争に関しての多様な視点からの理解を促進することを目指す。</p> <p>Students will learn the basics of Peace and Conflict Studies by interacting with scholars in universities in Asian conflict-affected countries online while students are sitting in their own classroom. Students can acquire the diverse perspectives related to Peace and Conflict Studies as well as the real situation on the ground. Through interaction and discussion with scholars overseas, skills of intercultural communication can also be developed.</p>
前もって履修 しておくべき科目	n/a
前もって履修しておく ことが望ましい科目	n/a

教科書等	なし None
授業内容とその進め方	<p>本コースでは、講義、ディスカッションと紛争分析を行う。アジアの紛争経験国の教授陣が各国のケーススタディの講義をオンラインで実施し、その後、各回の担当教授を交えてディスカッションおよび質疑のセッションが行われる。講義内容をより深く理解するために、各オンラインセッション毎に紛争分析レポートを執筆する。</p> <p>本コースで取り扱うテーマは以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 異文化コミュニケーション 2) 平和構築・紛争予防学概論 3) 紛争解決学概論 4) 紛争分析概論 5) アジアの紛争のケーススタディ <p>オンラインで参加予定の大学は以下の通り。</p> <p>カンボジア：パニャサストラ大学 インド：ムンバイ大学社会行動カレッジ、ニルマラニケタン カシミール（インド側）：イスラム工科大学 インドネシア：ガジャマダ大学 パキスタン：カイデアザム大学 カシミール（パキスタン側）：アザッド・ジャンム・アンド・カシミール大学 スリランカ：ペラデニア大学</p> <p>第1回 イントロダクション 第2回 異文化コミュニケーション 第3回 平和と紛争とは 第4回 紛争解決学概論 第5回 紛争分析概論 第6回 アジアの紛争のケーススタディ事前調査 第7回 平和構築・紛争予防の現場について 第8回 アジアの紛争のケーススタディ①（アジアの大学とオンライン接続し各国のケーススタディ学習、討論および紛争分析） 第9回 アジアの紛争のケーススタディ②（アジアの大学とオンライン接続し各国のケーススタディ学習、討論および紛争分析） 第10回 アジアの紛争のケーススタディ③（アジアの大学とオンライン接続し各国のケーススタディ学習、討論および紛争分析） 第11回 アジアの紛争のケーススタディ④（アジアの大学とオンライン接続し各国のケーススタディ学習、討論および紛争分析） 第12回 アジアの紛争のケーススタディ⑤（アジアの大学とオンライン接続し各国のケーススタディ学習、討論および紛争分析） 第13回 アジアの紛争のケーススタディ⑥（アジアの大学とオンライン接続し各国のケーススタディ学習、討論および紛争分析） 第14回 アジアの紛争のケーススタディ⑦（アジアの大学とオンライン接続し各</p>

国のケーススタディ学習、討論および紛争分析)
第15回 レビューディスカッション

This course consists of three components; taught lectures, discussion, and writing reports. Scholars in several Asian countries will provide the lectures on the case study online. Discussion and Q&A sessions will follow. To understand the lectures more deeply, students are required to write a conflict analysis report in each session during the course.

The course will deal with topics below.

- 1) Intercultural Communication
- 2) Peace and Conflict Studies
- 3) Conflict Resolution
- 4) Conflict Analysis
- 5) Asian Conflict Cases

Participating universities are supposed to be as follows. (*Tentative)

Cambodia: Faculty of Social Sciences and International Relations,
Paññāsāstra University of Cambodia, Phnom Penh

India: College of Social Work, Nirmala Niketan, Mumbai

Indian administered Kashmir: Center for International Relations, Islamic
University of Science and Technology, Awantipora, India

Indonesia: Faculty of Social and Political Sciences, Gadjah Mada University,
Yogyakarta

Pakistan: School of Politics and International Relations, Quaid-i-Azam
University, Islamabad

Pakistan administered Kashmir: The Institute of Kashmir Studies, University
of Azad Jammu and Kashmir University, Muzaffarabad

Sri Lanka: Department of Political Science, University of Peradeniya, Kandy

*Details to be confirmed.

- 1: Introduction
- 2: Intercultural Communication
- 3: What is Peace and Conflict
- 4: Basics of Conflict Resolution
- 5: Basics of Conflict Analysis
- 6: A Preparatory Study of Asian Conflicts
- 7: A lecture on the Field of Peace and Conflict
- 8: Case Study of the Asian conflict 1: Lecture on a Case Study, Discussion and Conflict Analysis connecting with an Asian university online
- 9: Case Study of the Asian conflict 2: Lecture on a Case Study, Discussion and Conflict Analysis connecting with an Asian university online
- 10: Case Study of the Asian conflict 3: Lecture on a Case Study, Discussion and Conflict Analysis connecting with an Asian university online

	<p>11: Case Study of the Asian conflict 4: Lecture on a Case Study, Discussion and Conflict Analysis connecting with an Asian university online</p> <p>12: Case Study of the Asian conflict 5: Lecture on a Case Study, Discussion and Conflict Analysis connecting with an Asian university online</p> <p>13: Case Study of the Asian conflict 6: Lecture on a Case Study, Discussion and Conflict Analysis connecting with an Asian university online</p> <p>14: Case Study of the Asian conflict 7: Lecture on a Case Study, Discussion and Conflict Analysis connecting with an Asian university online</p> <p>15: Review Discussion</p>
<p>授業時間外の学習 (予習・復習等)</p>	<p>今回参加する予定のアジア各国／地域の紛争の概要を、ニュース、書籍、信頼できるウェブサイト等から予習しておくこと。（今回予定対象国／地域：カンボジア、インド、インド側カシミール、インドネシア、スリランカ、パキスタン、パキスタン側カシミール）</p> <p>また、参加する予定の大学の情報についても、各大学のホームページで閲覧しておくことを薦める。</p> <p>Students are strongly recommended to learn the outline of the conflict issues of participating countries/areas through news, books or reliable web sources. (Participating countries/areas: Cambodia, India, Indian Administered Kashmir, Indonesia, Pakistan, Pakistan administered Kashmir, Sri Lanka)</p> <p>It is also recommended to learn each university's information and background via the website before coming to the class.</p>
<p>成績評価方法 および評価基準 (最低達成基準を含む)</p>	<p>1) 参加・発言 30%</p> <p>2) 関連理論概論および紛争分析レポート 70%</p> <ul style="list-style-type: none"> - 異文化コミュニケーション (5%) - 平和構築・紛争予防学概論 (5%) - 紛争解決学概論 (5%) - 紛争分析概論 (5%) - アジアの紛争分析レポート <ul style="list-style-type: none"> ・インドネシア (10%) ・スリランカ (10%) ・カンボジア (10%) ・インド (10%) ・パキスタン (10%) <p>1) Active class participation: 30%</p> <p>2) Related theories' and conflict analysis reports: 70%</p> <ul style="list-style-type: none"> - Intercultural Communication (5%) - Peace and Conflict Studies(5%) - Conflict Resolution (5%) - Conflict Analysis(5%) - Asian conflict cases analysis reports Indonesia (10%)

	<p>Sri Lanka (10%)</p> <p>Cambodia (10%)</p> <p>India (10%)</p> <p>Pakistan (10%)</p>
<p>オフィスアワー:</p> <p>授業相談</p>	<p>glip@tufts.ac.jp</p>
<p>学生へのメッセージ</p>	<p>1) 本コースは、アジアの紛争経験国の大学の教授陣とオンラインで交流し学びを深めることに重きをおいているので、出席は必須。</p> <p>2) 各国／地域の情勢や技術的な事情により、詳細は変更になることがある。これに関連して授業終了時間が少々延長になる可能性もある。</p> <p>3) 日程（予定）</p> <p>2022 年</p> <p>7 月 25 日（月）：1-5 限</p> <p>7 月 26 日（火）：2-5 限</p> <p>7 月 27 日（水）：3-5 限</p> <p>7 月 28 日（木）：3-5 限</p> <p>1) Since this course puts strong emphasis on experiencing interaction with scholars in conflict affected Asian countries during sessions, participation is indispensable.</p> <p>2) Details might be subject to change due to the security situation or technical environment of participating countries/areas. Also, depending on the situation, the ending time of each day might be slightly extended.</p> <p>3) This course is supposed to be held on below dates and period.</p> <p>1-5 period, Monday, July 25</p> <p>2-5 period, Tuesday, July 26</p> <p>3-5 period, Wednesday, July 27</p> <p>3-5 period, Thursday, July 28</p>
<p>その他</p>	<p>n/a</p>
<p>キーワード</p>	<p>平和、紛争、アジア、紛争解決、紛争分析、異文化コミュニケーション、国際関係、国際政治</p> <p>Peace, Conflict, Asia, Conflict Resolution, Conflict Analysis, Intercultural Communication, International Relations, International Politics</p>

令和4年度 3 大学英語化科目 シラバス登録フォーマット

授業科目名	科目名： 日本の現在を知る 1 授業題目： 日本の社会問題		
英文授業科目名	Subject Title : Aspects of Contemporary Japan 1 Course Title : Japanese Social Problems		
開講年度	2022	開講年次	1, 2, 3, 4
開講学期、日にち、時限	夏学期集中 Summer 8/1, 2, 3, 1~5 限 (8:30-17:30)	開講場所	オンライン
授業の方法	講義 Lecture	単位数	2
科目区分	世界教養プログラム Global Liberal Arts Subjects		
開講学科・専攻	n/a		
担当教員名	堀口 佐知子 HORIGUCHI, Sachiko		
居室	東京外国語大学研究講義棟 4 階 412 室 GLIP デスク		
公開 E-Mail	n/a		
授業関連 Web ページ	http://www.tufs.ac.jp/student/lesson_course/program/glip/		

講義情報

主題および 達成目標	「社会構築主義的」枠組みを説明できるようになる。 戦後日本における社会問題を社会構築主義的に捉えられるようになる。 社会学的・人類学的視点から社会問題について多角的に考察することで、現代日本社会について微細な点も含めて理解することができる。 By the end of the course, students will be able to explain the "social constructionist" framework and apply it for making sense of social problems in post-war Japan. It is expected that students will develop a nuanced understanding of contemporary Japanese society through critically examining the social problems from sociological/ anthropological perspectives.
前もって履修しておくべき科目	n/a
前もって履修しておくことが望ましい 科目	n/a
教科書等	教科書： We will not use a textbook. 教科書は使用しない。 参考書： ISBN 9780415669276 書名 A sociology of Japanese youth : from returnees to NEETs 著者名 edited by Roger Goodman, Yuki Imoto and Tuukka Toivonen

	<p>出版社 Routledge 出版年 2012</p>
<p>授業内容と その進め方</p>	<p>本授業では、「社会構築主義」的枠組みから、戦後日本において社会問題がどのように発見、定義され、対応されてきたのか、考察する。まずは、社会問題にかんする社会学的アプローチを概観し、とくに社会構築主義的アプローチに焦点をあてていく。その後、日本人論（日本人性にかんする理論）について多角的に考察し、日本の社会問題にアプローチする枠組みについて検討する。その後、家族や教育、ジェンダー、労働や高齢化にかかわる日本の社会問題について、具体的に論じる。</p> <p>第1回 はじめに：本授業の概要 第2回 自己紹介&社会問題への社会学的アプローチ 第3回 日本社会へのアプローチ：日本人論（日本人の独自性にかんする理論） 第4回 日本社会に対する多角的アプローチ：日本人論批判 第5回 日本の社会問題の事例研究：若者の「ひきこもり」問題 第6回 メディア報道分析課題(授業内実施) 1: Google Classroom 上に日本の社会問題にかんする非学術的メディア報道の実例を共有 第7回 日本の社会問題へのアプローチ:日本の社会問題のメディア報道を多角的に考察 第8回 母性・日本の家族のありかたを捉えなおす 第9回 学校に通うことに困難を抱える日本の子どもたち 第10回 日本における教育と「国際化」 第11回 LGBTQIA+：日本では認められているのか 第12回 ジェンダーと労働 第13回 高齢化社会日本の課題 第14回 メディア報道分析課題（授業内実施）2: Google Classroom 上に日本の社会問題にかんする非学術的メディア報道の実例を共有。メディア報道考察課題1とは別の実例を挙げること。 第15回 まとめ</p> <p>We will draw on a "social constructionist" framework and examine how certain social problems have been discovered, defined, and dealt with in post-war Japan. We begin the course by providing an overview of sociological approaches, in particular, a social constructionist approach to social problems, and critically examining Nihonjin-ron (theories of Japanese-ness) to provide frameworks for approaching Japanese social problems. We will then discuss specific Japanese social problems around the family, education, gender, work, and aging.</p> <p>1: Introduction 2: Self introductions & sociological approaches to social problems 3: Approaches to Japanese society: Nihonjin-ron (theories of Japanese uniqueness) 4: Critical approaches to Japanese society: Critically examining Nihonjin-ron</p>

	<p>5: A case study of a Japanese social problem: hikikomori (youth social withdrawal)</p> <p>6: In-class media story assignment 1: Share on Google Classroom a non-academic media story on a Japanese social problem.</p> <p>7: Approaching Japanese social problems: critically examining media stories on Japanese social problems</p> <p>8: Rethinking motherhood and the Japanese family</p> <p>9: Suffering school-children in Japan</p> <p>10: Education and "internationalization" in Japan</p> <p>11: LGBTQIA+: accepted or not?</p> <p>12: Gender & work</p> <p>13: Challenges of an aging society</p> <p>14: In-class media story assignment 2: Share on Google classroom a non-academic media story on a Japanese social problem. The media story must be different from the one submitted for media story assignment 1.</p> <p>15: Summing up</p>
授業時間外の学習 (予習・復習等)	<p>授業内容について授業期間を通して復習し、最終レポート（本授業で学んだ3つの重要事項について論じる）の執筆のために十分な準備を重ねること。</p> <p>Students are expected to review the course content throughout the course in order to prepare for a final essay on three key learnings from the course.</p>
成績評価方法 および評価基準 (最低達成基準を含む)	<p>授業への積極的参加（授業内のディスカッションへの参加・授業内タスクへの取り組み）60%</p> <p>メディア報道分析課題（現代日本の社会問題にかんする非学術的メディア報道の実例の共有。2回実施 x 5%）10%</p> <p>最終レポート（本授業で学んだ3つの重要事項について論じる、1000ワード程度のエッセー）30%</p> <p>Active class participation (participation in class discussions/completion of in-class tasks) 60%</p> <p>Media story assignments (share a non-academic media story on a contemporary Japanese social problem for discussion in class, twice, 5% each) 10%</p> <p>Final essay (1000-word essay on three key learnings from the course) 30%</p>
オフィスアワー: 授業相談	<p>glip@tufts.ac.jp</p>
学生へのメッセージ	<p>本授業は同期型オンライン形態で、zoomを用いて実施する。課題や資料共有のため、Google Classroom も利用する。</p> <p>本授業に関心がある場合は、第1回授業に必ず出席すること。履修人数の上限は40名とし、履修希望者が40名を超えた場合、第1回授業時に選抜を行う。選抜の際には、留学生と高学年の学生を優先する。</p> <p>本授業は英語で実施する。英語で授業内のディスカッションに積極的に参加し、</p>

	<p>レポートを書くことができる英語力が必要となる。</p> <p>正当な理由（病気、家族にかかわる問題、大学関係の重要な行事、ネット接続の問題など）があつて授業を欠席する場合、課題を期限内に提出できない場合、配慮を必要とする場合は授業開始前、もしくは、なるべく早く講師に直接連絡すること。</p> <p>This course will be conducted online synchronously on zoom. We will also use Google Classroom for assignments/materials.</p> <p>You must attend the first session if you are interested in this class. The maximum number of students in this class will be 40, and if the number of students interested in the class exceeds 40, the instructor will do a selection in the first session. Priority will be given to foreign exchange students and students in their final/later years.</p> <p>This class will be conducted in English. You should be prepared to engage in discussions in class, and to write a paper in English.</p> <p>If you are missing a class or an assignment deadline for a legitimate reason (illness, family issues, important school-related activities, internet issues etc), you must directly inform the instructor prior to class time or at your earliest convenience to be given consideration.</p>
その他	n/a
キーワード	<p>日本、社会問題、社会構築主義</p> <p>Japan, social problem, social constructionism</p>

令和4年度 3 大学英語化科目 シラバス登録フォーマット

授業科目名	科目名： 歴史の中の日本を知る 2 授業題目： 近現代日本史概説		
英文授業科目名	Subject Title： Aspects of Japanese History 2 Course Title： Topics in Modern Japanese History		
開講年度	2022	開講年次	1, 2, 3, 4
開講学期、日にち、時限	秋学期 Fall 金曜日 2 限 Fri. 2nd period (10:10-11:40)	開講場所	オンライン
授業の方法	講義 Lecture	単位数	2
科目区分	世界教養プログラム Global Liberal Arts Subjects		
開講学科・専攻	n/a		
担当教員名	木村 正美 KIMURA, Masami		
居室	東京外国語大学研究講義棟 4 階 412 室 GLIP デスク		
公開 E-Mail	n/a		
授業関連 Web ページ	http://www.tufts.ac.jp/student/lesson_course/program/glip/		

講義情報

主題および 達成目標	<p>このクラスは、19 世紀半ばから 1970 年代までの日本史概説です。この間、日本 は半封建・半中央集権的国家から統一された近代的国民国家へと変化を遂げます が、その近代化の過程において、対外的には帝国主義の道に進み、対内的には権 威主義支配と民主化、自由と権利の拡大という相反する政治・社会的要求への対 応に苦心します。第二次世界大戦での敗戦後も、日本は「近代化」を追求し続け、 経済的にはより豊かで、また自由で民主主義な社会へと発展を遂げますが、この ジレンマは続き、さまざまな問題を生み続けます。近現代日本における政治、社 会経済、思想文化的発展を追いながら、これらのテーマについて考え理解を深め ていきます。</p> <p>This course reviews Japanese history from the mid-1800s to the 1970s. During this period, Japan developed from a semi-feudal, semi-centralized entity to a unified modern nation-state; but in the process of modernization, Japan transformed itself into an imperialist power outwardly; inwardly, it struggled to deal with two contradictory political and social dictates – the need for authoritarian control and aspirations of liberalism. After defeat in WWII, Japan evolved through further transformations to become a richer, and more democratic, more liberal society, but the Japanese kept facing the same dilemma and various problems occurring from their continuous search for modernity. We will look at interrelated political, socio-economic, and</p>
---------------	---

	intellectual-cultural developments during these periods and deepen our understanding of critical themes in modern Japanese history.
前もって履修しておくべき科目	n/a
前もって履修しておくことが望ましい科目	n/a
教科書等	<p>教科書 抜粋したテキストをクラスで使します（別途指示）。 Selected readings will be provided in class.</p> <p>参考書: ISBN 9780618914944 書名: A Brief History of Chinese and Japanese Civilizations 著者名: Conrad Schirokauer ... [et al.] 出版社: Harcourt Brace Jovanovich 出版年: 2006 -----</p> <p>使い慣れた英語＝日本語・母国語辞典や英英辞典を持参して下さい。同義語辞典も役立ちます。 Bring your own English-Japanese/ your mother tongue and English-English dictionaries; a Thesaurus would be useful, too.</p>
授業内容とその進め方	<p>このクラスは、19 世紀半ばから 1970 年代までの日本史概説です。この間、日本は半封建・半中央集権的国家から統一された近代的国民国家へと変化を遂げますが、その近代化の過程において、対外的には帝国主義の道に進み、対内的には権威主義支配と民主化、自由と権利の拡大という相反する政治・社会的要求への対応に苦心します。第二次世界大戦での敗戦後も、日本は「近代化」を追求し続け、経済的にはより豊かで、また自由で民主主義な社会へと発展を遂げますが、このジレンマは続き、さまざまな問題を生み続けます。近現代日本における政治、社会経済、思想文化的発展を追いながら、これらのテーマについて考え理解を深めていきます。</p> <p>第 1 回 クラスの概要、自己紹介 第 2 回 開国 第 3 回 明治維新 第 4 回 近代政治機構の成立 第 5 回 明治社会と経済 第 6 回 帝国主義への道 第 7 回 中間試験 第 8 回 大正デモクラシー 第 9 回 1920 年代 - 30 年代：戦時体制へ 第 10 回 アジア・太平洋戦争 第 11 回 連合国日本占領 第 12 回 戦後政治・社会</p>

	<p>第 13 回 期末試験</p> <p>第 14 回 ALH1 一次史料講読（「福翁自伝」の一部）：第 5 回で使用（ディスカッションに備えること）</p> <p>第 15 回 ALH2 一次史料講読（講和・安保問題や市民活動に関する一次史料）：第 11 回で使用（ディスカッションに備えること）</p> <p>※注）最大 35 名まで履修可；主に日本人学生（1・2 年生；英語レベル中級程度）対象；原則、留学生の割合は全体の 3 分の 1 までとする；履修希望者数が 35 を超す場合、履修者は、学年、学科、日本人学生と留学生数のバランスを考えつつ、第 1 週に選考される；履修登録済みであろうとなかろうと、初回の授業に参加していない学生は選考から外れ、したがって履修することはできないディスカッションに備えること）</p> <p>This course reviews Japanese history from the mid-1800s to the 1970s. During this period, Japan developed from a semi-feudal, semi-centralized entity to a unified modern nation-state; but in the process of modernization, Japan transformed itself into an imperialist power outwardly; inwardly, it struggled to deal with two contradictory political and social dictates – the need for authoritarian control and aspirations of liberalism. After defeat in WWII, Japan evolved through further transformations to become a richer, and more democratic, more liberal society, but the Japanese kept facing the same dilemma and various problems occurring from their continuous search for modernity. We will look at interrelated political, socio-economic, and intellectual-cultural developments during these periods and deepen our understanding of critical themes in modern Japanese history.</p> <p>1: Introduction, Overview of the Syllabus 2: Opening of Japan 3: Meiji Restoration 4: Establishment of a Modern Political System 5: Meiji Society and Economy 6: Imperialism and Empire-Building 7: Midterm Exam 8: Taisho Democracy 9: 1920-30s: Toward a Wartime Regime 10: Asia-Pacific War 11: Allied Occupation of Japan 12: Postwar Politics and Society 13: Final Exam 14: [ALH1] Primary-Source Reading (portions of The Autobiography of Yukichi Fukuzawa) for Week #5; be prepared for class discussion 15: [ALH2] Primary-Source Reading (writings on peace and security issues and citizens' activism) for Week #11; be prepared for class discussion</p>
--	--

	<p>*Notes: Class Size: max. 35; Target: mainly Japanese students (freshmen and sophomores; English level = intermediate); (Ideal) ratio of Japanese to International Students: 2: 1; In case that the number of students who would like to enroll in this class exceeds 35, the students who can take the class will be selected in Week #1, based on grade, major, and the ratio of Japanese to international students; whether pre-registered or not, those who do not attend the class on Day #1 and thus miss the selection procedure cannot join this class</p>
<p>授業時間外の学習 (予習・復習等)</p>	<p>リーディング課題がほぼ毎週あります。授業には、必ず課題をすべて終わらせてから参加して下さい。</p> <p>There is a reading assignment almost every week. Students are expected to show up in class with all the homework done.</p>
<p>成績評価方法 および評価基準 (最低達成基準を含む)</p>	<p>参加度 15% クイズ 20% (2.5% x 8) 中間試験 30% 期末試験 35%</p> <p>クイズでは、リーディング課題および講義内容を理解しているか、語彙習得をしているかをチェックをします。中間・期末試験では、設問に対し、英語のアカデミックライティングのルールに則り、パラグラフあるいはエッセイ形式で記述回答してもらい、講義の理解度・語彙習得度を測ります。内容のほか、英語のライティング力も評価されます。</p> <p>Participation 15% Quizzes 20% (2.5% x 8) Midterm Exam 30% Final Exam 35%</p> <p>Quizzes are assigned to check students' understanding of the lectures and assigned readings and their acquisition of new vocabulary. With two exams, students need to demonstrate those in a paragraph-writing or multi-paragraph essay-writing form, following the basic rules of academic English writing. Not only the content but also their English writing ability will be evaluated.</p>
<p>オフィスアワー: 授業相談</p>	<p>glip@tufts.ac.jp</p>
<p>学生へのメッセージ</p>	<p>出席は「オプション」ではありません。学生は毎週授業に参加することが求められています。しかし、どのような理由であれ、3回までの欠席は罰則なしで許されますが、4回目以降は、欠席する毎にクラス成績から10%減点します。また、10分から30分までの遅刻は、2回で欠席1、30分以上の遅刻は欠席1とみなします。もし3回とも正当な理由（例 事故、感染症、入院、宗教的祭日）での欠</p>

	<p>席であれば、講師に（準）公的文書を提出し、補習等の相談をして下さい。</p> <p>Attendance is not an option; students are expected to always be in class. However, up to 3 absences are allowed for whatever reasons without a penalty; after that, a letter grade (10%) will be deducted from your course grade per absence. Also, if you show up 10-30 min. late twice, it will be counted as 1 absence; coming late more than 30 min. will be equivalent to 1 absence. If you are unable to attend class more than three times all for legitimate reasons – such as a car accident, disease infection, hospitalization, and religious holidays, you should provide the instructor with (semi-)official documentation and discuss make-up opportunities with her.</p>
その他	n/a
キーワード	<p>日本史、近代化・近代、明治、大正、昭和、帝国主義、帝国、戦争、占領、民主主義・民主化、憲法、平和・安保</p> <p>Japanese history, modernization/ modernity, Meiji, Taisho, Showa, imperialism, empire, war, occupation, democracy/ democratization, constitution, peace/ security</p>

令和4年度 3 大学英語化科目 シラバス登録フォーマット

授業科目名	科目名： 歴史の中の日本を知る 2 授業題目： 戦後日本の社会史と文学・思想		
英文授業科目名	Subject Title: Aspects of Japanese History 2 Course Title: Social History, Literature, Philosophy in the Post War Period		
開講年度	2022	開講年次	1, 2, 3, 4
開講学期、日にち、時限	秋学期 月曜 4 限 Fall, Monday 4th period (14:20-15:50)	開講場所	オンライン
授業の方法	講義 Lecture	単位数	2
科目区分	世界教養プログラム Global Liberal Arts Subjects		
開講学科・専攻	n/a		
担当教員名	友常 勉 TOMOTSUNE, Tsutomu		
居室	東京外国語大学研究講義棟 4 階 412 室 GLIP デスク		
公開 E-Mail	n/a		
授業関連 Web ページ	http://www.tufs.ac.jp/student/lesson_course/program/glip/		

講義情報

主題および 達成目標	このコースでは、日本の社会史、文学、思想を扱う。その際、カルチュラルスタ ディーズと社会史研究の方法論を学ぶ。 This course deals with social history, literature, and philosophy in japan, with studying methodology of cultural studies and social history.
前もって履修 しておくべき科目	n/a
前もって履修しておくこ とが望ましい科目	n/a
教科書等	なし no textbook used
授業内容と その進め方	このコースでは、日本の社会史、文学、思想を扱う。その際、カルチュラルスタ ディーズと社会史研究の方法論を学ぶ。 第 1 回 理論的枠組:政治と 第 2 回 日本資本主義論争と Heterarchical approach 第 3 回 セトラー・コロニアリズムとマイノリティ研究 第 4 回 被差別部落と沖縄:中上健次、中上紀、崎山多美

	<p>第5回 天皇制と文学:大江健三郎 第6回 天皇制と映像:大島渚 第7回 サバルタン研究とその現在:監獄から 第8回 軍隊慰安婦と日本帝国主義 第9回 クィア研究:M Butterfly 第10回 新宗教の系譜:大本教とオウム真理教 第11回 GAFAM と利子生み資本 第12回 日本思想史:本居宣長 第13回 日本思想史と西洋哲学:京都学派 第14回 ALH1 サンフランシスコ州立大学 Ethnic Studies との共催シンポへの参加とレポート提出 第15回 ALH2 グループによる共同調査とレポート提出(東京のアイヌ民族、寄せ場、性産業、あるいは家族史など。授業内で提示する)</p> <p>This course deals with social history, literature, and philosophy in Japan, with studying methodology of cultural studies and social history.</p> <p>1: Theoretical Frame: Politics and Aesthetic Education 2: Dispute of Japanese Capitalism and Heterarchical approach 3: Settler Colonialism and Minority Studies 4: Hisabetu Buraku and Okinawa:Nakgami Kenji, Nakagami Nori, Sakiyama Tami 5: Tenno Emperor System and Literature: Oe Kenzaburo 6: Tenno Emperor System and Visual Representation: Oshima Nagisa 7: Subaltern Studies and the Recent Issues: From the Prison 8: "Comfort Women" and Japanese Imperialism 9: Queer Studies: M Butterfly 10: Genealogy of New Religion: Omotokyo and Aum Shinrikyo 11: GAFAM and Moneyed Capital 12: Intellectual History in Japan: Motoori Norinaga 13: Intellectual History in Japan and Western Philosophy: Kyoto school 14: ALH1 Participating in the Symposium organized by SFSU and TUFS, submitting a report 15: ALH2 Group-based research and submitting a report (picking up from provided topics in the class such as Ainu in Tokyo, Street Labor Market, Sex-Industry, or Family history)</p>
授業時間外の学習 (予習・復習等)	<p>事前に配布される参考資料を読むこと</p> <p>Reading materials should be prepared and distributed to every participants. Each participant should read the stuff material.</p>
成績評価方法 および評価基準 (最低達成基準を含む)	<p>授業への貢献 (30%), アクティブラーニング(30%), 期末レポート(40%)</p> <p>Class performance (30%), active learning (30%), term paper (40%)</p>

オフィスアワー: 授業相談	glip@tufs.ac.jp
学生へのメッセージ	授業前に資料を通読しておくこと Every participant should read reading materials before each session.
その他	n/a
キーワード	サバルタン、近代化と西洋化、文学、哲学、日本帝国主義、植民地主義、ポストコロニアリズム Subaltern, literature, philosophy, modernization and westernization, commons, the new religion, Japanese imperialism, colonialism, post-colonialism

令和4年度 3 大学英語化科目 シラバス登録フォーマット

授業科目名	Global Communication		
英文授業科目名	Global Communication		
開講年度	2022 年度 FY 2022	開講年次	1-4 年次 1 st - 4 th grade
開講学期、日にち、時限	2 学期 (8/3, 4, 5) 各 1-3 限 2 nd term (3, 4, 5 Aug.) 1-3 period	開講場所	小金井キャンパス Koganei Campus
授業の方法	講義及びディスカッション Lecture and Discussion	単位数	1 単位 1 credit
科目区分	3 大学連携特別講義ⅠまたはⅡ Multidisciplinary Courses		
開講学科・専攻	全学科対象 Open to all Courses		
担当教員名	堀切友紀子 HORIKIRI, Yukiko		
居室	小金井 13 号館 504 室 Koganei-campus, Building No.13, 5 th Floor, Room #504		
公開 E-Mail	該当なし N/A		
授業関連 Web ページ	該当なし N/A		

講義情報

主題および 達成目標	<p>本コースでは、国際的な環境で活躍する人材となるべく必要なコミュニケーション能力を身につけることを目的とする。場面やシーンに合わせたコミュニケーションの特徴や、コミュニケーションの背景にある様々な要因について、具体的な事例をもとにクラスメートとのディスカッションを通して考える。普段当たり前だと思っていることに対して疑問を持ち、その要因・課題を整理したうえで適切なコミュニケーション能力を身につけるための視点を獲得することを目指す。</p> <p>本科目は、グローバル展開科目 Multidisciplinary Courses の英語による科目として開講され、また、三大学連携特別講義として東京外国語大学、電気通信大学の学生も履修することができる。</p> <p>1) 自身がとっているコミュニケーション行動の目的や種類、特徴、それらの影響要因について客観的に意識できるようになる。 2) 自身を取り巻く国際的視点を含む状況を適切に把握し、それにふさわしいコミュニケーションをとるために必要なことを自ら考えて実践できるようになる。</p> <p>主な目標(科目別目標一覧対応): 国際感覚○、知の開拓能力○、コミュニケーション○、プレゼンテーション○</p>
---------------	--

	<p>This course explores what is the appropriate and effective communication in a global society. By examining the communication used in specific social contexts, the students observe and analyze their own communication. The course includes group work and activities to share their thoughts and experiences.</p> <p>This course is offered in English as one of the Multidisciplinary Courses of the Global Integrated Studies, and is open to students from Tokyo University of Foreign Studies and the University of Electro-Communications.</p> <p>1.To develop awareness of own communication including its purpose, variety, feature, and effect factors. 2. To develop the new perspective for understanding our global society</p> <p>Competency development: Global awareness, Intercultural communication skills, Presentation skills</p>
前もって履修しておくべき科目	該当なし N/A
前もって履修しておくことが望ましい科目	該当なし N/A
教科書等	パワーポイントスライド及び配布資料 PPT slides and Handout in class
授業内容とその進め方	<p>第1回 オリエンテーション コミュニケーションとは 第2回 コミュニケーション(1) 種類・スタイル 第3回 コミュニケーション(2) 影響要因, 自己理解 第4回 意識化 (1) 客観的把握 第5回 意識化 (2) 価値観、カテゴリー化 第6回 異文化コミュニケーションスキル 第7回 プレゼンテーション 第8回 まとめ</p> <p>1. Orientation: What is Communication? 2. Communication #1 -Variety and Style 3. Communication #2 -Effect Factors, Self-understanding 4. Consciousness #1 -Objective Comprehension 5. Consciousness #2 -Values, Categorization 6. Intercultural Communication Skills 7. Presentation 8. Summary</p>
授業時間外の学習 (予習・復習等)	<p>授業時間 15 時間や課題エッセイ・プレゼンテーション準備時間計 30 時間を含めた、本学の標準時間数に準ずる予習復習を行うこと</p> <p>You are to spend 15 hours in the class, and 30 hours in completing the essay task and</p>

	presentation preparation.
成績評価方法 および評価基準 (最低達成基準を含む)	授業でのパフォーマンス(40%)、プレゼンテーション(40%)、課題 (20%)を総合的に判断する。 Grades are given based on 40% on class performance, 40% on oral presentation, and 20% on reports.
オフィスアワー: 授業相談	メールにてアポイントを取ってください。(horikiri@go.tuat.ac.jp) Please make an appointment by email. (horikiri@go.tuat.ac.jp)
学生へのメッセージ	積極的にディスカッションに参加してください。 Active participation in discussion is expected in each class.
その他	特になし N/A
キーワード	コミュニケーション、客観的把握、国際感覚、多文化社会 Communication, Objective comprehension, Global awareness, Multicultural Society

令和4年度 3 大学英語化科目 シラバス登録フォーマット

授業科目名 Course Title	上級生物学		
英文授業科目名 Course Title in English	Advanced Biology		
開講年度 Academic Year	2022	開講年次 Year of Study	1～3
開講学期、 日にち、時限 Term	第4学期 Spring (2023年) 2月13～17日、10:30～16:15 Feb 13 th to Feb 17 th , 10:30～16:15, 2022	開講場所 Faculty offering the course	東京農工大学府中キャンパス 本館 21 (予定)
授業の方法 Teaching Styles	Lecture	単位数 Credits	2
科目区分 Category	教養科目 (Liberal Arts and Fundamental Studies)		
開講学科・専攻 Cluster / Department	全学科 (All departments)		
担当教員名 Instructor (s)	古谷哲也 (農学部共同獣医学科) Tetsuya Furuya Sabine Gouraud (国際基督教大学) 安村友紀 (グローバル教育院) Yuki Yasumura,		
居室 Office	新4号館 251室 (古谷)、グローバル教育院 (安村) New building 4-Room 251, Fuchu Campus (Furuya), 13th Building, Room507, Koganei Campus (Yasumura)		
公開 E-Mail Email	furuyat@cc.tuat.ac.jp , yuki-yasumura@go.tuat.ac.jp		
授業関連 Web ページ Course Website	https://spica.gakumu.tuat.ac.jp/Syllabus/DetailMain.aspx https://lms-2.tuat.ac.jp/moodle/		

講義情報

Course Information

主題および 達成目標 Course Goals and Objectives	<p>1. 細胞や分子レベルで生命活動を理解し、近代のバイオテクノロジーや分子生物学の応用技術の発展に関する知識を身につける。</p> <p>2. 生物、化学、医学、獣医学に関係したトピックについて英語で理解し、自身の興味を持つトピックについて英語で説明できる。</p> <p>1. To gain a fundamental understanding of 'life' at the cellular and molecular levels and to apply such knowledge in learning biotechnology and modern molecular techniques.</p> <p>2. To understand updated interdisciplinary biological topics relating to</p>
--	---

	chemistry, physics, medicine and veterinary medicine in English, and to be able to describe a topic of own interest in English		
前もって履修しておくべき科目 Prerequisites	特になし None		
前もって履修しておくことが望ましい科目 Recommended Course(s) / Subject(s)	特になし None		
教科書等 Course Materials (Required Textbooks, Materials, etc.)	「キャンベル生物学」第11版。Campbell & Reece “Biology” 11th ed. 「細胞の分子生物学」第6版。Albert et al. “Molecular Biology of the Cell”		
授業内容とその進め方 Course Outline	生物学基礎と応用技術の授業の中で、英語の知識と科学の知識を実践的に運用することが求められ、教養教育における発展的内容を含む展開科目として位置づける。授業では細胞の生命活動、生命エネルギーの獲得と利用、ならびに遺伝情報伝達と利用の生物学的仕組みを分子レベルで解説する。そして、それぞれの現象が、日常生活を支える産業や先端技術、医学に応用されている実例を学び、そのメカニズムを理解する。本科目は、講義のほか対話形式による授業や演習、学生によるプレゼンを取り入れている。 In this course for fundamental biology and technological applications, it is required to utilise the knowledge of English language and science, and is therefore set at an advanced level in the general education curriculum. We will learn the structure and function of cells, the mechanism of energy production in cells, and the transfer and utilization of genetic information from nucleic acids, especially DNA, to biomolecules. We will then learn how such scientific phenomena and the knowledge are applied in industrial and biomedical technologies that support our traditional, modern and future lives. This lecture course includes interactive classes, discussion sessions and opportunities for presentation.		
	1	生命体のエネルギー源としての糖と脂質。生命エネルギーの獲得	Carbohydrates, Lipids, and Chemical Energy That Sustains Life
	2	タンパク質と酵素。酵素を用いた産業技術	Proteins, Enzymes and Their Applications in Industry
	3	無気呼吸と発酵のしくみ。バイオ技術への応用（食品、バイオエタノール）	Anaerobic Respiration, Fermentation and Their Applications (Food and Bioethanol Production)
	4	有気呼吸とATP合成酵素。生命の進化を考える。	Aerobic Respiration and ATP Synthase. Implications for Evolution.
	5	光合成。光エネルギーから化学エネルギーへの変換、エネルギーの貯蔵のしくみ	Photosynthesis. Conversion of Light Energy to Chemical Energy, and Storage of Energy.
	6	光合成の産業利用（植物の二次代謝）	Application of Photosynthesis in

	謝、バイオプラスチック、植物製薬)	Industry (Plant secondary metabolism, bioplastic, Plant biopharming)
7	細胞組織：健康な状態と病気の状態におけるオルガネラの構造と機能。そしてそれに関連する最先端技術	Cellular Organization: organelles structure/function in health and disease and the cutting-edge techniques behind it
8	細胞膜：健康な状態と病気の状態における細胞膜の構造と機能。細胞膜のバイオテクノロジーにおける重要性	Cellular membranes: structure/function in health and disease, their importance in biotechnology
9	健康な状態と病気の状態における細胞シグナル伝達、シグナリング伝播経路の複雑さを解明するために使用された伝統的および新規の方法	Cellular Signaling in health and disease, traditional and novel methods used to unravel the complexity of signalling pathways
10	細胞分裂と増殖、細胞分裂と生殖：正常な細胞におけるこれらプロセスの仕組みと、がん細胞などの異常な細胞における病気の仕組み	Mitosis and cell growth, Meiosis and fertilization: mechanisms of these processes in normal cells and how diseases are caused in cells with abnormal functions such as cancer cells
11	遺伝情報の保存、複製、および修復：正常な細胞におけるこれらプロセスの仕組みと、がん細胞や老化において病気が起こる仕組み	Preservation, replication and repair of genetic information: mechanisms of these processes in normal cells and how diseases are caused in cells with abnormal functions such as cells in cancer and aging process
12	遺伝情報による蛋白質の合成：正常細胞における仕組みと、バイオテクノロジーにおける応用、あるいは、薬剤の開発等の医学における応用	Protein synthesis based on genetic information: mechanisms in normal cells and their application in biotechnology and in medicine such as development of drugs
13	転写、翻訳、蛋白分解を含めた様々なレベルにおける蛋白質量の制御：発達や分化過程における仕組みと異常細胞における病気の仕組み	Control of quantity of proteins through multiple levels including transcription, translation and stability of proteins: mechanisms through development and differentiation and roles in diseases
14	指定されたトピックについての学生発表	Presentations by students on specified topics
15	総括試験	Summary Examination
授業時間外の学習		オンライン (Moodle または Google Classroom) に掲載されたスライドを基に予習

(予習・復習等) Extended study hour outside class	と復習をすること In addition to 30 hours you spend in the class and 4 hours in preparing your presentation, you are recommended to prepare for and revise the classes spending the standard amount of time as specified by the University, using the lecture handouts available from Moodle or Google Classroom and the references specified below.
成績評価方法 および評価基準 (最低達成基準を含む) Grading Policy	成績評価は、試験結果(60%)に加え、授業への貢献度と発表の評価(40%)を基準として総合的に判断する。原則8割の出席を必要とする。 Grades are given based 60 % on examination scores and 40 % on contribution during the classes and presentation. Note that more than 80 % attendance is required to sit for the exam.
オフィスアワー： 授業相談 Office Hours for Study Consultation	e-mail で予め連絡を入れてくれれば、随時受け付ける。 Please ask questions before or after the class, or email to make appointments.
学生へのメッセージ Message	生物学を楽しんで欲しい。Enjoy Biology!
その他 Others	英語で授業を行う。Lectures will be conducted in English, and are open to international students.
キーワード Keyword(s)	細胞、細胞小器官、生体分子、エネルギー代謝、光合成、遺伝子、タンパク質合成 Cell, Organelles, Biological molecules, Energy metabolism, Photosynthesis, Genes, Protein synthesis

令和4年度 3 大学英語化科目 シラバス登録フォーマット

授業科目名	共生社会について考える		
英文授業科目名	Perspective of the Humanities and Social Science on “Kyosei Society”		
開講年度	2022 年度	開講年次	1～4 年次
開講学期、日にち、時限	後期集中 日程未定ですが、土曜日に予定しています。	開講場所	
授業の方法	講義	単位数	2
科目区分	共通科目		
開講学科・専攻			
担当教員名	吉田央・大倉茂・甲田菜穂子・新井祥穂・草処基・山田祐彰・及川洋征・川端良子・藤井義晴・Hiroshi YOSHIDA, Shigeru OHKURA, Naoko KODA, Sachiko ARAI, Motoi KUSADOKORO, Masaaki YAMADA, Yousei OIKAWA, and Yoshiko KAWABATA・Yoshiharu FUJII		
居室			
公開 E-Mail			
授業関連 Web ページ			

講義情報

主題および達成目標	<p>主題: 現代社会において持続可能な発展を実現するために重要となる「共生」について、その概念と「共生社会」実現の条件と課題を考察します。具体的には、「共生」に関する理論的な検討を踏まえ、国内外における持続可能な社会の構築に向けた取組みに関する事例から、「共生社会」実現に向けた現状と課題を議論します。「共生」とは一体どういうものなのか、という理念の追求とともに、国内外における共生概念の実践例を提示しながら、共生社会のありようを考えていきます。講義は以下の 2 部から構成されます。</p> <p>第 1 部では、人文社会科学の今日の総合的視点を「共生」と位置づけ、そこから現代社会が直面している課題を浮き彫りにし共生社会の必要性ならびに共生社会構築に必要な条件について、日本社会での現状と課題を提示しつつ、多面的側面から議論します。</p> <p>第 2 部では、自然と人間の共生、とりわけ現代社会における農業の役割と農学的視点を踏まえ、発展途上国農村部における持続可能な地域社会のあり方について、農工大が実施してきた JICA 草の根プロジェクトを含む事例を題材に議論します。</p> <p>達成目標: 複眼的視点から現代社会の諸問題と未来を考える意識が向上し、その洞察力の醸成を目標とします。</p> <p>主な目標(科目別目標一覧対応): 国際感覚 知の開拓能力 コミュニケーション プレゼンテーション</p> <p>本科目は、グローバル展開科目 Multidisciplinary Courses の英語による科目として</p>
-----------	---

開講され、また、三大学連携特別講義として東京外国語大学、電気通信大学の学生も履修することができます。

以下の場合には、授業を中止します。

- ・受講希望者が2名以下の場合
- ・対面での授業が不可能な場合

Attaining sustainable development in our current society may require “*Kyosei*,” or symbiosis as an effective way of thinking. This course is intended to inquire into the concept of *Kyosei*, and necessary conditions and challenges for establishing *Kyosei* society.

The class begins with a theoretical inquiry into *Kyosei*, followed by discussions on the present situations and challenges toward *Kyosei* society through a series of case studies of current efforts for the construction of sustainable society in Japan and abroad.

What is “*Kyosei*?” The class begins with this simple but difficult question. While pursuing the concept and idea of *Kyosei*, we inquire into how *Kyosei* works in our current society and what is required for the establishment of *Kyosei* society. An inquiry into *Kyosei* is carried out by referring to several experiences.

The course is composed of two parts. In part 1, viewing *Kyosei* as a contemporarily meaningful and comprehensive perspective of humanities and social science, we attempt to identify and assess present situations and challenges that society has been currently faced with and inquire into the needs of and conditions for the establishment of *Kyosei* society through a multidisciplinary approach.

In part 2, first, focusing on *Kyosei* between nature and humans, we examine the role of agriculture in our current society and the examples of *Kyosei* in agriculture. Second, given the viewpoint above, we discuss the way in which sustainable rural development has emerged in developing countries, through a series of case studies of the rural development projects conducted by faculty members of Tokyo University of Agriculture and Technology.

Expected Learning: The ultimate goal of this course is to improve the ability to think about various issues which our society has been currently faced with and future perspectives from multiple points of view and to deepen insights to understand such issues.

Competency development: Global awareness, Ability to Explore Knowledge, Communication skills, Presentation skills.

This course is offered in English as one of the Multidisciplinary Courses of the Global Integrated Studies, and is open to students from Tokyo University of Foreign Studies and the University of Electro-Communications.

*Notice:

This lecture will be held in the face-to-face class (off-line). This lecture will be canceled in the case that only two or fewer students apply for this lecture.

前もって履修しておくべき科目	なし Nothing in particular
前もって履修しておくことが望ましい科目	なし Nothing in particular
教科書等	講義担当者が担当回で適宜、資料を配布および参考文献を提示 No specific text book is used. Some materials will be distributed in class while other references will be announced.
授業内容とその進め方	<p><第1部> 第1回目 共生社会の経済・環境政策① (吉田) 第2回目 共生社会の経済・環境政策② (吉田) 第3回目 共生社会と環境正義① (大倉) 第4回目 共生社会と環境正義② (大倉) 第5回目 動物介在介入①(甲田) 第6回目 動物介在介入②(甲田) <第2部> 第7回目 「共生」アプローチに基づく社会研究のケーススタディ (新井) 第8回目 現代社会における農業の役割、持続可能な発展に向けて② (草処) 第9回目 ベトナム・バックマー国立公園緩衝地帯における農民参加型木炭多用途利用技術の普及 (及川) 第10回目 ブラジル・アマゾンにおける遷移型アグロフォレストリーの普及 (山田) 第11回目 ウズベキスタン・シルクロードにおける養蚕技術の普及と女性のエンパワメント(川端) 第12回目 アレロパシーのような生物間相互作用を利用した持続的農業(藤井) 第13～15回目 学生による発表と総合ディスカッション</p> <p><Part 1> 1. Economic and Environmental Politics on “Kyosei Society” ① (Yoshida) 2. Economic and Environmental Politics on “Kyosei Society” ② (Yoshida) 3. Kyosei Society and Environmental Justice ① (Ohkura) 4. Kyosei Society and Environmental Justice ② (Ohkura) 5. Animal Assisted Intervention ① (Koda) 6. Animal Assisted Intervention ② (Koda)</p> <p><Part 2> 7. How do we conduct a social research, using case studies based on “Kyosei” approach? (Arai) 8. Economic Thinking and “Kyosei Society” (Kusatokoro)</p>

	<p>9. Participatory extension of multipurpose use of charcoal in the buffer zone of Bach Ma National Park, Vietnam (Oikawa)</p> <p>10. Dissemination of Successional Agroforestry in the Brazilian Amazon (Yamada)</p> <p>11. Transfer of high quality Japanese sericulture technology and empowerment of women in Silk Road country, Uzbekistan(Kawabata)</p> <p>12. Sustainable Agriculture through Biological Interaction as allelopathy (Fujii)</p> <p>13 – 15. Presentation by Students and Final Discussion</p>
<p>授業時間外の学習 (予習・復習等)</p>	<p>授業時間 30 時間とディスカッション発表準備時間 4 時間程度に加え、各担当者が提示する閲覧可能な講義資料や参考書を参照し、本学の標準時間数に準ずる予習と復習を行うことが必要です。</p> <p>This course carries 2 credits. In addition to 30 hours you spend in the class and 4 hours in preparing your presentation at every discussions, you are recommended to prepare for, and revise, the classes spending the standard amount of time as specified by the University for each class, using the lecture handouts available and the references specified by every lecturers.</p>
<p>成績評価方法 および評価基準 (最低達成基準を含む)</p>	<p>授業内でのディスカッション(40%)ならびに課題レポート及びそのプレゼンテーション(60%)によって評価します。</p> <p>Participation in discussion (40%), and Term paper and its presentation in class (60%)</p>
<p>オフィスアワー: 授業相談</p>	<p>随時</p> <p>On demand</p>
<p>学生へのメッセージ</p>	<p>なし</p> <p>Nothing in particular</p>
<p>その他</p>	<p>なし</p> <p>Nothing in particular</p>
<p>キーワード</p>	<p>共生、共生社会、持続可能な発展、持続可能な地域社会、発展途上国農村・農業開発、国際協力</p> <p>Kyosei, Kyosei society, Sustainable development, Sustainable local society, Rural and agricultural development in developing countries, International cooperation</p>

令和4年度 3 大学英語化科目 シラバス登録フォーマット

授業科目名	Water Resources Management		
英文授業科目名	Water Resources Management		
開講年度	2022 年度	開講年次	1～4
開講学期	3 学期/ 9/20、9/21	開講場所	
授業の方法	講義/Lecture	単位数	1
科目区分	専門科目		
開講学科・専攻			
担当教員名	加藤亮/Tasuku KATO		
居室	2N303		
公開 E-Mail	taskkato@cc.tuat.ac.jp		
授業関連 Web ページ			

講義情報

主題および 達成目標	<p>水田農業の灌漑排水に関する基礎的な知見について理解することができる。 ディプロマポリシーについては下記参照のこと</p> <p>Obtain basic knowledge of the irrigation and drainage system in paddy field Corresponding criteria in the Diploma policy: See the curriculum maps. https://www.tuat.ac.jp/campuslife_career/campuslife/policy/</p>
前もって履修 しておくべき科目	<p>特になし Nothing</p>
前もって履修しておく ことが望ましい科目	<p>特になし Nothing</p>
教科書等	<p>Google Classroom にて事前に PDF 等で配布します Provided by handout. Please register in prepared Google classroom “Water Resources Management”, documents and handout will be uploaded.</p>
授業内容と その進め方	<p>1 日本の水田農業についての概略 Class orientation and introduction of paddy fields in Japan 2 灌漑排水の世界的な問題 Global issues in irrigation and drainage 3 水収支と水文学的な分析方法 Water balance and hydrological analysis 4 水資源開発について Water resources development 5 灌漑システム及び水田の多面的な機能</p>

	<p>Irrigation system and Multi-aspects on paddy fields</p> <p>6 流域管理について</p> <p>Watershed management and planning</p> <p>7 水, 食料, エネルギーの安全保障</p> <p>Water Food Energy security</p> <p>8 最終試験もしくはレポート</p> <p>Final examination</p> <p>Online class would be scheduled under COVID19 situation.</p>
授業時間外の学習 (予習・復習等)	<p>15 時間の講義を行います, 予習復習はそれぞれ 15 時間かかります。</p> <p>15hr is provided by lecture, 15hr for pre-study, and 15hr post study</p>
成績評価方法 および評価基準 (最低達成基準を含む)	<p>講義の各回で簡単な小テスト(40%)を実施し, 期末試験(またはレポート) (60%)で評価します。</p> <p>Small quiz or comment sheet in every class(40%), Final exam or report (60%)</p>
オフィスアワー: 授業相談	<p>メールにて連絡ください。通常, 夕方(5時から6時)はあいています。</p> <p>Daily 17:00-18:00, required to book by e-mail, please</p>
学生へのメッセージ	
その他	
キーワード	<p>水田, 灌漑計画, 水文学, 水収支, 水質</p> <p>Paddy field, Irrigation plan, Hydrology, Water balance, Water quality</p>

令和4年度 3 大学英語化科目 シラバス登録フォーマット

授業科目名	土と水		
英文授業科目名	Soil and Water		
開講年度	2022 年度	開講年次	1～4
開講学期、日にち、時限	2 学期 9 月 15・16 日	開講場所	TBA
授業の方法	Lecture	単位数	1
科目区分			
開講学科・専攻	Eco-region Science		
担当教員名	Hiroataka Saito		
居室	3-309		
公開 E-Mail	hiros@cc.tuat.ac.jp		
授業関連 Web ページ	http://web.tuat.ac.jp/~vadose		

講義情報

主題および 達成目標	Learn about the interaction of soil and water and its concepts, measurement method, and the basis of evaluation methods. The lecture especially focuses on water retention of soil and movement of water in the soil. Students will learn that knowledge can be applied to agricultural issues, irrigation management, water resource conservation, soil/groundwater pollution prevention, and remediation.
前もって履修 しておくべき科目	N/A
前もって履修しておくこ とが望ましい科目	Basic soil science
教科書等	Course materials will be provided
授業内容と その進め方	<ol style="list-style-type: none"> 1. Soil Physical Properties 2. Soil and Water 2. Soil Water Potential 3. Soil Water Retention 4. Saturated Water Flow I 5. Saturated Water Flow II 6. Unsaturated Water Flow I 7. Unsaturated Water Flow II 8. Infiltration, Redistribution, and Evaporation 9. Agriculture and Soil Physics 10. Environmental Problems
授業時間外の学習 (予習・復習等)	Please refer to the Curriculum map of TUAT at https://www.tuat.ac.jp/campuslife_career/campuslife/policy/
成績評価方法	Homework/Exercise 50%, Final exam or report, 50%

および評価基準 (最低達成基準を含む)	
オフィスアワー: 授業相談	By appointment only
学生へのメッセージ	Please download the materials from Google Classroom.
その他	If there are less than two students registered, the course will be cancelled.
キーワード	Unsaturated Soil, Soil Physics, Water Flow, Soil Contaminants

令和4年度 3 大学英語化科目 シラバス登録フォーマット

授業科目名	途上社会における人口事情学		
英文授業科目名	The Study on Population Affairs in Developing Societies		
開講年度	2022 年度	開講年次	1～4
開講学期、日にち、時限	2学期集中講義(9/26、9/27)	開講場所	2N-509/Online
授業の方法	講義+AL型 Lecture + AL	単位数	1
科目区分	世界教養科目 Global Liberal Arts Subjects		
開講学科・専攻			
担当教員名	聶 海松 Haisong NIE		
居室	東京農工大学農学部2N-508		
公開 E-Mail	nie-hs@cc.tuat.ac.jp		
授業関連 Web ページ	該当なし Not Applicable (N/A)		

講義情報

主題および 達成目標	<p>グローバルな視点で途上社会における人口および環境問題に関する課題の認識を行い、積極的な議論を通して知見や課題を共有することを目的とし、AIMS 科目およびグローバル展開科目として位置づける。</p> <p>持続可能な開発を効果的に実現する人口動態に注目しつつ、途上諸国・地域、特に中国の人口および環境問題に関する調査研究について学習する。本科目は、講義のほかビデオ視聴、テーマを選択して一人ずつのプレゼンテーション、各国の事情に関するディスカッションを取り入れている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経済と人口問題に焦点を当て、持続可能な開発と地域計画に関して理解する。 2. 選択したテーマについてまとめ、プレゼンテーションすることができる。 3. 一か国の事例に対して、自国での状況や自分の考えを発表し、積極的に議論することができる。 <p>主な目標(科目別目標一覧対応)</p> <p>異文化理解◎、国際感覚◎、コミュニケーション◎、自主性・自律性○、プレゼンテーション○</p> <p>This course aims to recognize issues related to population and environmental problems in developing society from a global perspective and to share knowledge and issues through active discussion. It is positioned as AIMS subject and global development subject.</p> <p>To learn about researching studies on developing countries and regions, especially China's population and environmental problems while focusing on population dynamics to effectively realize sustainable development.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To understand sustainable development and regional planning with a focus on economic and population problems. 2. Enable to summarize and present the selected topics.
---------------	---

	<p>3. Enable to present the situation with one's own ideas and have positively discussions</p> <p>Main goals/targets (Corresponding to targets list by course)</p> <p>Intercultural Understanding ◎, International sense ◎, Communication ◎, Autonomy ○, Presentation ○</p>
前もって履修しておくべき科目	<p>該当なし</p> <p>Not Applicable (N/A)</p>
前もって履修しておくことが望ましい科目	<p>該当なし</p> <p>Not Applicable (N/A)</p>
教科書等	<p>必要に応じて資料を配布</p> <p>Distribute documents as necessary</p>
授業内容とその進め方	<p>1. 世界人口に関する基礎的知識の取得:</p> <p>(1) 世界人口の動態</p> <p>(2) 人口問題と環境、食糧問題</p> <p>(3) 途上地域における人口管理と家族計画</p> <p>2. 人口データを読み解くためのスキル取得:</p> <p>国連サイトから人口データを利用する方法を学ぶ。</p> <p>3. 事例紹介と課題認識:</p> <p>中国における人口問題、高齢化について紹介する。その後、受講者の国の事情を互いに紹介、議論する。</p> <p>4. テーマに沿ったプレゼンテーションと議論:</p> <p>国連人口基金 (UNFPA) が発行する「世界人口白書」から選んだテーマについて発表と議論をおこなう。</p> <p>1. Acquisition of basic knowledge on world population:</p> <p>(1) Dynamics of the world population</p> <p>(2) Population Problems and the Environment, Food Problems</p> <p>(3) Population management and family planning in developing regions</p> <p>2. Skill acquisition on purpose of reading population data:</p> <p>Learn how to use population data from the United Nations site.</p> <p>3. Case introduction and issue recognition:</p> <p>Lecture on population problems and aging in China</p> <p>After that, introduction and discussion between audiences on circumstances of the countries of the students is required.</p> <p>4. Presentation and discussion on topics:</p> <p>Presentation and discussion on the topics selected from the state of world population that were developed under the auspices of the UNFPA Division for Communications and Strategic Partnerships.</p>
授業時間外の学習 (予習・復習等)	<p>授業時間 (16 時間)、5 ページのレポートおよび発表用パワーポイント作成時間 (5 時間) に加え、授業で扱うテーマに関して母国の事情や自分の考えを発表するための準備として情報収集を行い本学の標準時間数に準じる予習復習を行うこと。</p> <p>In addition to 16 hours you spend in the class and 5 hours in completing 5- page report assignment and PPT slides for presentation, you are recommended to prepare for, and review, the classes spending the standard amount of time as specified by the University</p>

	for each class.
成績評価方法 および評価基準 (最低達成基準を含む)	発表の評価(40%)、1回の課題(レポート5ページ)の評価(40%)、授業や議論への参加度(20%)を総合的に判断する。 Grades are given based 40 % on presentation, another 40% on 5-page report and 20% on contribution during the classes.
オフィスアワー: 授業相談	面談の予約は、随時に以下のメールにご連絡頂ければ幸いです。 nie-hs@cc.tuat.ac.jp If you have any question, please feel free to contact me. nie-hs@cc.tuat.ac.jp
学生へのメッセージ	受講者の様子を配慮して、より受講者にとって楽しく有意な講義となるため、内容の一部変更も伴うことがあります。 Considering the situation and level of the students, part of the contents may be changed to become a fun and beneficial and meaningful lecture for the students.
その他	該当なし Not Applicable (N/A)
キーワード	人口動態、人口問題、食糧、環境破壊、人口管理、人口移動、高齢化 Population dynamics, population issues, food, environmental destruction, population management, population migration, aging

令和4年度 3 大学英語化科目 シラバス登録フォーマット

授業科目名	森林資源とバイオマス		
英文授業科目名	Forest Resources and Biomass		
開講年度	2022 年度	開講年次	1,2,3,4
開講学期、日にち、時限	夏学期集中 Summer 9/28,29	開講場所	
授業の方法	フィールド・ツアー	単位数	1
科目区分	3大学連携特別講義ⅠまたはⅡ Multidisciplinary Courses		
開講学科・専攻	東京農工大学農学部環境資源科学科		
担当教員名	佐藤敬一、安藤恵介 Keiichi Sato, Keisuke Ando		
居室	1-317, 1-318		
公開 E-Mail	keisato@cc.tuat.ac.jp , andok@cc.tuat.ac.jp		
授業関連 Web ページ			

講義情報

主題および 達成目標	<p>森林資源やバイオマスに関する概論として位置づけられる AIMS(東南アジアからの留学生)とのジョイント・プログラムです。森林資源とバイオマスについての1泊2日のフィールド・ワークとして行います。日本の木材利用・林産・木材工学・木材加工・木質構造に関して理解を深めるため、木造住宅の工場、歴史的な木橋、古民家などを見学します。また、富士山周辺の森林や富士山世界遺産センター等を訪れ、富士山や森林等について歴史や自然について学びます。</p> <p>到達目標</p> <p>日本の木材利用、木材加工、木質構造について理解し、説明できる。</p> <p>現在の工業化住宅と伝統的な古民家を比較検討し、木橋の構造を含め、木質構造を理解し、説明できる。</p> <p>富士周辺の森林の利用や生態的な機能について理解し、説明できる。</p> <p>本科目のディプロマ・ポリシーの観点:</p> <p>本学 HP(三つのポリシー)のカリキュラムマップを参照してください。</p> <p>https://www.tuat.ac.jp/campuslife_career/campuslife/policy/</p> <p>This course is joint program with AIMS. 2-days field trip with AIMS students on forest products, timber engineering (wood processing and wooden construction). Visiting a factory of modern housing company, an ancient wooden bridge Saruhashi, monkey bridge, constructed 1300 years ago, and staying the night at Japanese traditional house. Next day visiting forests at Mt. Fuji and Fujisan World Heritage Center.</p> <p>Expected Learning</p> <p>Understanding utilization of Japanese forest resources and forest products.</p> <p>Traditional and modern Japanese wooden housing. Ancient and historical wooden bridge.</p> <p>Forest in Mt.Fuji area. Mt.Fuji as a world heritage.</p>
---------------	--

	Corresponding criteria in the Diploma policy: See the curriculum maps. https://www.tuat.ac.jp/campuslife_career/campuslife/policy/
前もって履修しておくべき科目	特になし
前もって履修しておくことが望ましい科目	特になし
教科書等	フィールド・ツアー前に配布します。 Course notes will be provided before the field trip.
授業内容とその進め方	スケジュール(予定) 1 日目 東京農工大学正門(府中) 8:30 集合 1) 工業化住宅の工場見学(一条工務店上野原市工場) 2) 猿橋(約 1300 年前に建設) 見学 3) 猿橋の民家に宿泊 2 日目 4) 富士山周辺の森林散策 5) 富士山世界遺産センター見学 府中キャンパス 19:00 到着(交通事情により遅くなることがあります) 1-day Departure 8:00 (Fuchu Campus) 1) Visiting a factory of modern Japanese housing company (Ichijo Komuten). 2) Visiting an ancient wooden bridge Saruhashi, monkey bridge, constructed 1300 years ago. 3) Visiting and staying at old traditional house. 2-day 4) Visiting the forest near Mt. Fuji. 5) Visiting the Fujisan World Heritage Center Arrived 19:00 or later, depend on the traffic (Fuchu Campus)
授業時間外の学習(予習・復習等)	特になし
成績評価方法および評価基準(最低達成基準を含む)	フィールド・ツアー後のレポート課題により評価(100%) Report submission of field (100%)
オフィスアワー: 授業相談	随時 事前にメールで問い合わせてください
学生へのメッセージ	AIMS の学生と一緒に旅行・宿泊します。宿舎は古民家で食事提供はないので、自炊の予定、履修人数が多い場合は、自炊を中止とします。留学生とともに富士山に行こう！ Stay the night together! Foods must be cooked by ourselves. Let's enjoy local foods (Houtou: regional udon noodle) and ethnic foods such as 'nasi goreng'! Let's go to Mt. Fuji!

<p>その他</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により中止となる場合もあります。 This class may be cancelled due to COVID-19. バス代・宿泊費等で最大 1 万円程度かかります。 It will cost up to 10,000 yen for bus fare and accommodation.</p>
<p>キーワード</p>	<p>森林資源 森林バイオマス 木材工業 木質構造 木造住宅 Forest Resources, Forest Biomass, Timber Engineering, Wooden Housing, Wood Processing</p>

令和4年度 3 大学英語化科目 シラバス登録フォーマット

授業科目名	農業生態情報学		
英文授業科目名	Agro- & Eco-Informatics		
開講年度	2022 年度	開講年次	1～4
開講学期、日にち、時限	3 学期 third term 10/7、10/21	開講場所	農学部本館 2 階 22 教室（予定）
授業の方法	集中 intensive	単位数	1
科目区分			
開講学科・専攻			
担当教員名	辰己賢一・福田信二 Kenichi TATSUMI・Shinji FUKUDA		
居室			
公開 E-Mail			
授業関連 Web ページ	なし None		

講義情報

主題および 達成目標	<p>・農業生産および農業生態系に関するデータ分析や解析に必要となる基礎技術を習得している</p> <p>・農業生産および農業生態系に関するデータ分析や解析の適用例について理解できる</p> <p>科目別目標: 国際感覚、 知の開拓能力、 コミュニケーション、 プレゼンテーション、 教養倫理、 科学技術系学識</p> <p>After this lecture, students are expected to learn programming skills for data analysis and modelling on agricultural production and agro-ecosystems, and to understand applications of data analysis and modelling on agricultural production and agro-ecosystems</p> <p>Competency development: Global awareness, Ability to Explore Knowledge, Communication skills, Presentation skills, Academic Ethics, Knowledge on Science and Technology</p>
前もって履修しておくべき科目	特になし. None
前もって履修しておくことが望ましい科目	特になし. None
教科書等	特になし. None
授業内容と	第 1 回: プログラミング基礎(1)

その進め方	<p>第2回:プログラミング演習(1) 第3回:プログラミング基礎(2) 第4回:プログラミング演習(2) 第5回:エコインフォマティクス概論(1) 第6回:エコインフォマティクス概論(2) 第7回:アグロインフォマティクス概論(1) 第8回:アグロインフォマティクス概論(2)</p> <p>1st: Programming basics (1) 2nd: Programming practice (1) 3rd: Programming basics (2) 4th: Programming practice (2) 5th: Introduction to ecoinformatics (1) 6th: Introduction to ecoinformatics (2) 7th: Introduction to agroinformatics (1) 8th: Introduction to agroinformatics (2)</p>
授業時間外の学習 (予習・復習等)	<p>授業時間 15 時間に加え、授業で配布する講義資料などを活用して本学の標準時間数に準ずる予習と復習を行うこと。</p> <p>In addition to 15 hours students spend in the classes, students are recommended to prepare for and revise the classes spending the standard amount of time as specified by the University.</p>
成績評価方法 および評価基準 (最低達成基準を含む)	<p>平常点(授業内容に関する討論等を重視)(40%)、レポート(30%)およびプレゼンテーション(30%)に基づいて評価する。 なお、1/3 以上欠席した場合は単位を認定しない。</p> <p>Assessment will be done based on attendance & discussion (40%), report (30%) and presentation (30%) in the lecture. Students who do not attend at least two-thirds of all lectures given will not receive a credit.</p>
オフィスアワー: 授業相談	<p>特段設定しないため、事前にメール等により連絡すること。</p> <p>Please make appointments by e-mail.</p>
学生へのメッセージ	
その他	
キーワード	<p>情報学、農業生産、作物、農業生態系、環境ダイナミクス</p> <p>Informatics, agricultural production, agroecosystems, environmental dynamics</p>

令和4年度 3 大学英語化科目 シラバス登録フォーマット

授業科目名	Communicating Science		
英文授業科目名	Communicating Science		
開講年度	2022 年度	開講年次	1～3
開講学期、日にち、時限	第4 学期 2023 年 2 月 8-10 日 10:30～16:15, 2 月 20 日 10:30～18:00, 2 月 27 日 13:00～16:15 Feb 8 th -10 th , 10:30～16:15 Feb 20 th , 10:30～18:00 Feb 27 th , 13:00～16:15	開講場所	東京農工大学小金井キャンパス 13 号館 505 (予定)
授業の方法	Lecture	単位数	2
科目区分	教養科目 (Liberal Arts and Fundamental Studies)		
開講学科・専攻	全学科 (All departments)		
担当教員名	安村友紀 (グローバル教育院) Yuki Yasumura,		
居室	小金井キャンパス 13 号館 507 Room507, 13 th Building, Koganei Campus		
公開 E-Mail	yuki-yasumura@go.tuat.ac.jp		
授業関連 Web ページ			

講義情報

主題および達成目標	<p>このコースでは技術開発の影響をさまざまな観点から吟味し、また、異なる立場、価値観、プライオリティーを持つ人々の視点を理解し共通理解や合意に至るためには何が必要かを考える。また、パブリックエンゲージメントによる科学者と市民の協働にも焦点を当てる。授業は英語で行われ、英語によるディスカッションやプレゼンテーションのスキルアップも目指す。2022 年度の授業では、国際的にも重要課題の一つである食糧問題を扱う。食糧生産に関わる科学技術を学び、さまざまな立場にあるステークホルダーと研究者のコミュニケーションを想定して必要な情報発信と協働方法、意見交換を考える。</p> <p>This course is designed to consider and evaluate the technological advances and their impacts on the society from various points of view, and to nurture the mindsets and skills to communicate with people who have different priorities and interests when discussing new technologies in the social context. This year, we will discuss food security, which is one of the major global issues we face today. We will learn modern biotechnologies that are applied in food production, and think about ways in which the stakeholders from different sectors of society and scientists can share views and ideas effectively and work together collaborately.</p>
-----------	--

	<p>到達目標は次の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 英語で科学的な内容について効果的にディスカッションし発表することができる。 2. 様々な地域的特性や社会的立場に身を置く人々の、多様な視点や価値観を意識できる。 3. パブリックエンゲージメント、ステークホルダーコミュニケーションを理解する。 4. 科学技術の知識、利益、課題、問題点について、対話の相手にとって重要な点を、適切な言葉や方法で説明することができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1. To learn and practice how to discuss and present scientific topics effectively 2. To be aware of different interests, priorities and values of people who are in different positions of the society and in different parts of the world 3. To understand the concept of public engagement and stakeholder communications. 4. To understand and practice skills required to communicate effectively with the target audience and offer the critical information.
前もって履修しておくべき科目	なし
前もって履修しておくことが望ましい科目	なし
教科書等	<p>授業で資料を配布します。</p> <p>Handouts will be provided during the class</p>
授業内容とその進め方	<p><u>1 日目</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1: 講義 穀物など農産物の栽培化について 2: ディスカッション 栽培化の利点と問題点。これからの農業の優先事項 3: 講義 遺伝子組み換え技術による食糧生産 <p><u>2 日目</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 4: 講義 ゲノム編集技術による食糧生産 5: ディスカッション 遺伝子組み換え技術に対する社会の目線(紫トマトの事例) 6: 発表 遺伝子組み換え技術に対する様々な視点からの評価(紫トマトの事例) <p><u>3 日目</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 7: 講義 パブリックエンゲージメント(市民参与)とステークホルダーマッピング 8: ディスカッション ステークホルダーの主張を理解し考える 9: ディスカッション ステークホルダーと目的に合わせた情報発信 <p><u>4 日目</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 10: 発表 科学技術の情報発信方法の提案 11: 講義 2050 年の食糧危機 12: ディスカッション 課題解決を目的としたアイデア出し 13: ディスカッション プロジェクトの設計と主張の組み立て <p><u>5 日目</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 14: 発表 研究ファンド獲得を想定した発表 15: フィードバックを元にしたプロジェクトの見直し

	<p><u>Day 1</u></p> <p>1: Lecture – Domestication of crops</p> <p>2: Discussion – Benefits and problems of agriculture. Priorities for modern agriculture</p> <p>3: Lecture – Food production by genetic Engineering</p> <p><u>Day 2</u></p> <p>4: Lecture – Food production by genome Edit</p> <p>5: Discussion – Public perception of GM food (a case study on purple tomatoes)</p> <p>6: Presentation – Evaluation of GM food from various perspectives (a case study on purple tomatoes)</p> <p><u>Day 3</u></p> <p>7: Lecture – Public engagement and stakeholder mapping</p> <p>8: Discussion – Identifying and considering the stakeholders’ agenda</p> <p>9: Discussion – Communication tailored for the stakeholders to meet their objectives</p> <p><u>Day 4</u></p> <p>10: Presentation – To suggest a strategy of public engagement for a technology of choice</p> <p>11: Lecture – Food security in 2050</p> <p>12: Discussion – Idea generation for problem solving</p> <p>13: Discussion – Planning a project and constructing a convincing argument</p> <p><u>Day 5</u></p> <p>14: Presentation – Project proposal aiming at funding agencies</p> <p>15: Rewriting presentation to respond to feedback</p>
授業時間外の学習 (予習・復習等)	<p>授業時間30時間と発表準備にかける授業外学習時間に加え、授業で配布する教材や後述の参考書を使って本学の標準時間数に準ずる予習・復習を行うこと。</p> <p>In addition to 30 hours you spend in the class and preparation for presentations, you are recommended to prepare for and revise the classes spending the standard amount of time as specified by the University.</p>
成績評価方法 および評価基準 (最低達成基準を含む)	<p>ワークシートの作成と発表の点数(80%)、ディスカッションへの参加(20%)</p> <p>Marks on the worksheets and presentations assigned in the class (80%). Commitment to discussion (20%)</p>
オフィスアワー: 授業相談	<p>授業前後に質問を受け付けます。メールでも質問や面談の設定に対応します。</p> <p>Please ask questions before or after the class, or email to make appointments</p>
学生へのメッセージ	<p>英語での講義、ディスカッション、プレゼンテーションで構成されます。留学や学会発表の前準備にも活用できる内容です。</p> <p>This course is offered in English, and includes discussion sessions and opportunities for presentations.</p>
その他	<p>この科目は、2021 年度まで開講された Science and Technology in the Global Era の内容を踏襲したものです。Science and Technology in the Global Era を過去に履修した学生は、本科目の履修により単位を修得することはできません。</p> <p>This course is based on ‘Science and Technology in the Global Era’ which was offered until 2021. Students who have attended ‘Science and Technology in the Global Era’ in the past will not be able to obtain additional credits by taking this course.</p>

キーワード	パブリックエンゲージメント、ステークホルダーコミュニケーション public engagement, stakeholder communications
-------	--

令和4年度 3 大学英語化科目 シラバス登録フォーマット

授業科目名	波とはなにか？		
英文授業科目名	What is a Wave?		
開講年度	2022 年度	開講年次	1-3
開講学期、日にち、時限	2nd term Sep. 1, 2, 5, 15, 16 10:30-16:15	開講場所	Room 503, Bldg. 13 Koganei Campus (or Online if necessary)
授業の方法	講義 Lecture	単位数	2
科目区分			
開講学科・専攻			
担当教員名	伊藤 輝将 Terumasa Ito		
居室	小金井キャンパス 4 号館 512 室 三沢研究室 Room 512, Bldg. 4, Koganei campus (Misawa's Lab)		
公開 E-Mail	teru-ito@cc.tuat.ac.jp		
授業関連 Web ページ			

講義情報

主題および 達成目標	<p>本講義は東京外国語大学、電気通信大学、東京農工大学の西東京三大学連携の一環として開講される Multidisciplinary Course の一つである。本講義は、物理系専攻学生に限らず全学部学科の学生を対象に、基本的な物理学とその応用について学ぶ機会を提供することを目的としている。主として取り扱う領域は、波動現象、電磁気学、光学、初等的な量子物理学である。</p> <p>本講義は、Wifi、スマートフォンやカメラなど我々の普段の生活に関わる物の中に潜む身近な物理の実例に触れながら、製品のデザインの中にそれがどのように組み込まれているかを学んでいく。複雑な数式を解くことよりも、物理現象を理解する上で必要となる単純なモデルや重要な数学のコンセプトを中心に理解することを目指す。本授業は講義形式の他に、対話型のグループ作業や英語によるプレゼンテーションを交えて議論を進めていく。</p> <p>本講義では、以下を身につけることを目標とする：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近なエレクトロニクスの中にある物理現象が何であるかを見極められること ・簡単な数式、適切な図やグラフを使って波動の現象を表現できること ・物理学が他の学問分野(生物学、化学、医学など)にどのように関わっているかを理解すること ・自分の言葉として英語を使い、対話、発表するスキルを身につけること <p>This course is a part of the inter-university, multi-disciplinary courses open for three universities (TUFS, UEC and TUAT). The goal of this course is to introduce basic wave physics and its applications for both physics and non-physics students. The main topics</p>
---------------	--

	<p>to be covered in the lectures include: wave phenomena, electromagnetics, optics and basic quantum physics.</p> <p>We will approach the topics of physics using existing tangible examples that illustrate the relevance of physics to your lives such as wifi, smartphones and cameras, and you will learn how wave physics is used in product designs. We will not spend so much time on studying how to solve complicated equations; instead, we will focus on learning some important simplified models and mathematical concepts to understand a variety of physical phenomena. This course includes interactive group work sessions and opportunities for presentations in English.</p> <p>Upon completion of this course, you will be able to:</p> <ul style="list-style-type: none"> – Identify the key physical phenomena in electronic devices around you, and explain how they work. – Use simple equations, appropriate diagrams and graphs to describe wave phenomena. – Recognize the relations between physics and other disciplines (biology, chemistry, medicine etc.). – Gain communication and presentation skills in English, and more importantly, in your own words.
前もって履修しておくべき科目	n/a
前もって履修しておくことが望ましい科目	n/a
教科書等	<p>Reference textbook: OpenStax's University Physics (Volume 1–3) Download for free at "https://openstax.org/details/books/university-physics-volume-1"</p> <p>この他、各授業で講師が作成した資料を配布する。 Lecture handouts and materials will be prepared for each class.</p>
授業内容とその進め方	<ol style="list-style-type: none"> 1. Understanding how electronic devices work (display, wifi, camera, sound devices) 2. Oscillators and waves 3. Physical quantities in electromagnetics 4. Electromagnetic spectra (radio waves, light, x-ray) 5. Electromagnetism (Maxwell's equations) 6. How to analyze waves: the concept of Fourier transform 7. Optics: refraction, interference and diffraction 8. Optical instruments for biomedical sciences (spectroscopy and microscopy) 9. Presentation I (mid-term report) 10. Momentum and energy of electromagnetic waves 11. Introduction to quantum physics: wave-particle duality 12. Photons and electrons 13. Light and matters: absorption and emission spectra 14. Presentation II (final exam)

	15. Recap
授業時間外の学習 (予習・復習等)	参考書テキストは授業前に一度目を通しておくこと。詳細を暗記する必要はない。 I recommend that you read the reference textbook prior to lecture, but you are not expected to memorize the details.
成績評価方法 および評価基準 (最低達成基準を含む)	中間レポート(20%)、最終試験の評価(50%)、授業への貢献を含めた平常点(30%)を用いて判断する。 The final grades for this course will be given based on: <ul style="list-style-type: none"> - Midterm report (20%) and final exam (50%) - Participation during the lectures: including working in groups, answering questions and quizzes (30%)
オフィスアワー: 授業相談	月曜 10:00 – 11:00 (小金井キャンパス 4 号館 512 室) E メールでの質問も随時受け付けます。 Monday 10am – 11am. Office: Room 512, Bldg. 4, Koganei campus. You can email me anytime with questions (teru-ito@cc.tuat.ac.jp)
学生へのメッセージ	<p>本講義を通して、今日の多くのイノベーションや産業を下支えしている物理学の面白さを、より身近に感じてもらえればと思います。この三大学連携講義の中では、他大学の学生と協働してグループワークに取り組んでもらう機会もあります。これまでに物理を学んできた人にとっては、実際に声に出して人に説明してみること、自分の理解度がどの程度かを知る良い機会になると思います。もちろん、他の専攻の学生の参加も大いに歓迎します。授業やオフィスアワーの中で、ぜひ素朴な疑問を私や学生に対して投げかけてみてください。単純な話を考えることが皆さんの思考を深める良い薬になり、自分では知っていると思っていることが、実は理解できてなかった、ということに気づききっかけにもなります。三大学連携の「相互作用」をぜひ楽しんでください。</p> <p>Through this course, I hope you will become familiar with many exciting topics of physics that drive many innovative electronics products and real-world industrial applications. This multi-disciplinary course offers group work activities with students from other universities. If you have already taken some physics classes, this course will be a great opportunity for you to check your understanding, and explain the physics in your own words. Of course, we also welcome students from other majors. I encourage you to ask any simple questions to me and other students during the class or in office hours. Your simple questions will stimulate the classroom and will make other students realize that what they thought they understood was actually what they didn't. I hope you will enjoy the interactions between the three universities!</p>
その他	n/a
キーワード	波動現象、エレクトロニクス、電磁気学、幾何光学と波動光学、初等量子物理学 wave phenomena, electronics, electromagnetics, geometric and wave optics, basic quantum physics

令和4年度 3 大学英語化科目 シラバス登録フォーマット

授業科目名	持続型社会のための工学		
英文授業科目名	Engineering for Sustainable Society		
開講年度	2022 年度	開講年次	1～3
開講学期、日にち、時限	2学期、2022/8/24(水)、8/26(金)、8/31(水)、1限～5限	開講場所	農工大・小金井・13 号館 505 室
授業の方法	講義 Lecture	単位数	2
科目区分	Multidisciplinary Courses		
開講学科・専攻			
担当教員名	野間竜男 Tatsuo NOMA		
居室	小金井キャンパス 13 号館 508 室 Room 508, Building 13, Koganei Campus		
公開 E-Mail	noma@cc.tuat.ac.jp		
授業関連 Web ページ			

講義情報

主題および達成目標	<p>この講義では、持続可能な社会実現の着想に役立つ最先端のエンジニアリングを理解することを意図しています。日本の現在の課題に焦点を当てるとともに、諸外国における状況と比較します。工学の重要な基礎知識を提供するだけでなく、履修者の将来の研究とグローバルな視点のアイデアを生み出す一助になればと思います。なお、すべての指示、講義、議論が英語で行われます。</p> <p>This course is intended to cultivate a better understanding engineering for sustainable world among students. We focus on the current issues in Japan and also compare with the situations in other countries. These lectures will not only provide students with an important foundation in engineering, but also help them develop ideas of their own research and global point of view. All instructions, lectures and discussion are given and done in English.</p> <p>1. 種々の科学技術について持続可能な社会構築に関わる観点から考察し、日本の科学技術レベルとその課題を理解できる。</p> <p>2. 科学技術に関する種々のトピックについて参加者間で英語で討論できる。</p> <p>3. 留学生を含めた参加者でグループを作り、プレゼンテーションコンテンツを協働して作成できる。</p> <p>1. Discuss the science and technology for sustainable society from a global point of view and be able to understand Japan's science and technology level and its tasks.</p> <p>2. Be able to discuss various topics on science and technology among</p>
-----------	--

	<p>participants in English.</p> <p>3. Participants including international students will make groups and be able to collaborate on presentation.</p>
前もって履修しておくべき科目	<p>特になし</p> <p>n/a</p>
前もって履修しておくことが望ましい科目	<p>特になし</p> <p>n/a</p>
教科書等	<p>インターネットを通して各回のレジュメを事前に配布する。</p> <p>Handouts and materials given before the lectures</p>
授業内容とその進め方	<p>すべて英語で行います。</p> <p>[Day 1]</p> <p>1. Orientation and self-introduction from the participants 全体ガイダンスと参加者各自の専門に関する自己紹介</p> <p>2. Lecture on Topic 1 (Plastics Recycling) プラスチックスの再利用技術について学ぶ</p> <p>3. Lecture on Topic 2 (Artificial Bone) 人工骨について学ぶ</p> <p>4. Lecture on Topic 3 (High Pressure Processing of Foods and Superabsorbant Polymers for Agriculture) 食品の超高压加工技術と吸水性ポリマーの農業への応用について学ぶ</p> <p>[Self-Study]</p> <p>5. Preparation for Individual Presentation 英語で発表することの注意点について指導する。後半のグループについてアレンジする。</p> <p>[Day 2]</p> <p>6. Students' Presentation and Discussion 1 英語での個別発表</p> <p>7. Students' Presentation and Discussion 2 英語での個別発表</p> <p>8. Lecture on Topic 4 (Biomass Energy) バイオマス技術について学ぶ</p> <p>9. Lecture on Topic 5 (Future Energy) 種々の最先端のエネルギー利用について学ぶ</p> <p>[Group-Study]</p> <p>10. Preparation for Group Presentation 1 各グループで発表を準備する</p> <p>11. Preparation for Group Presentation 2 各グループで発表を準備する</p> <p>[Day 3]</p> <p>12. Group Presentation and Discussion 1 英語でのグループ発表</p> <p>13. Group Presentation and Discussion 2 英語でのグループ発表</p> <p>14. Concluding Remarks 全体のまとめ</p> <p>15. Appendix 追補</p>
授業時間外の学習 (予習・復習等)	<p>講義、議論等はすべて英語で行うので、ある程度の英語コミュニケーション能力が必要である。事前にレジュメを配布するので、授業で用いる専門的な英語について理解できるよう予習することが必須である。また2回のプレゼンテーションのためには、レジュメだけではなくインターネット等で最新の科学技術事情を自ら調べ、まとめる復習が必要である。</p> <p>Lectures and discussions are all done in English, so English communication</p>

	skill is necessary. Handouts are distributed beforehand, so it is essential to prepare so that you can understand the technical terms used in the lecture. In addition, for two presentations, it is necessary to review the latest science and technology information through internet and resume by yourselves. In addition to 30 hours you spend in the class, you are expected to prepare for and review the classes as above, spending the standard amount of time as specified by the University.
成績評価方法 および評価基準 (最低達成基準を含む)	授業中の議論への参加度およびプレゼンテーション(2回)の内容から総合的に判断する。 議論：20%、プレゼンテーション：40%×2 Participation in Discussions during the lecture (20%) and oral presentations (80%)
オフィスアワー： 授業相談	金曜日 12:00-13:00 Friday 12:00-13:00
学生へのメッセージ	英語ですべて行うが、それほどハードルは高くはない。参加する留学生もそのほとんどがネイティブではないので、カタコトの英語で話す留学生もいる。基本的な英語に関する知識は日本人学生の方が高い場合も多い。この授業は英語をあくまでツールとした授業なので、学生が議論やプレゼンテーションをする際、文法や構文などにはあまりこだわらない。気軽に参加してほしい。その経験の中で、実践的な英語コミュニケーション能力が向上すると思う。授業中は参加者へ発言を頻繁に促し、それを基に参加者間で議論を進めていくので、積極的に発言してほしい I encourage participants to join the discussion during the lecture, so don't hesitate.
その他	
キーワード	科学技術、英語プレゼンテーション、持続型社会、英語ディスカッション Japanese, Science, Technology, Sustainable Society and Group Presentation

令和4年度 3 大学英語化科目 シラバス登録フォーマット

授業科目名	学域特別講義A(アルゴリズムの基礎)		
英文授業科目名	Special Lecture on Informatics and Engineering A (Fundamentals of Algorithms)		
開講年度	2022 年度 FY 2022	開講年次	1/2/3/4
開講学期、日にち、時限	前学期(夏季集中) Summer Lecture 8/25・8/26 10:40-17:45	開講場所	なし
授業の方法	遠隔講義 Online Lecture	単位数	1
科目区分	総合文化科目／特別講義		
開講学科・専攻	全類 All clusters		
担当教員名	小林 聡 Satoshi Kobayashi		
居室	西9号館735 West No. 9 Building Room 735		
公開 E-Mail	Kobayashi.satoshi@uec.ac.jp		
授業関連 Web ページ	http://www.comp.cs.uec.ac.jp/AlgEng/		

講義情報

主題および 達成目標	<p>本講義の目的は、いくつかの基礎的な問題に対する効率の良いアルゴリズムの設計方法を与えることである。</p> <p>達成目標は、</p> <p>(1) 講義で議論するアルゴリズムの振る舞い、正当性、時間計算量を理解できること、および</p> <p>(2) 動的計画法や貪欲算法などのアルゴリズムの設計手法を理解できることである。</p> <p>The purpose of this lecture is provide the theory and technique to design efficient algorithms for some fundamental problems.</p> <p>The goals of the students are to achieve the following points:</p> <p>(1) to understand the behavior, correctness, and time complexity analysis of the algorithms discussed in the lecture,</p> <p>(2) to understand the principles of design methodologies of algorithms, such as dynamic programming, greedy method, etc.</p>
前もって履修 しておくべき科目	<p>C 言語のプログラミングに関する科目、および、アルゴリズムの基礎的なデータ構造(リスト、二文木、ヒープ、など)と基礎アルゴリズム(ソートアルゴリズムなど)を理解できていること。</p> <p>Registered students should have ability to write C programs. Furthermore, the knowledge about some basic data structures (list, binary tree, heap, etc.) and basic algorithms (sorting, etc.) are required.</p>

前もって履修しておくことが望ましい科目	文脈自由文法に関する知識 Some knowledge about context-free grammars
教科書等	授業で資料を配布する。 Some handouts are provided at the lecture.
授業内容とその進め方	<p>(a) 授業の内容</p> <p>[1] 最小全域木と貪欲算法</p> <p>[2] Prim のアルゴリズムと Kruskal のアルゴリズムの正当性</p> <p>[3] 他の問題に対する貪欲算法</p> <p>[4] 最短経路問題と動的計画法</p> <p>[5] 動的計画法(1)—DFA の正則表現への変換</p> <p>[6] 動的計画法(2)—文脈自由文法とその認識問題</p> <p>[7] 動的計画法(3)—文脈自由文法の認識問題に対する CKY アルゴリズム</p> <p>[8] 動的計画法(4)—近似文字列照合アルゴリズム</p> <p>(b) 授業の進め方</p> <p>各問題に対して背景などを説明した後、アルゴリズムを与える。 アルゴリズムの正当性と時間計算量の解析は詳細に行う。 理解を深めるために実行例も与える。</p> <p>すべて講義について、講義ビデオを事前に与える。授業時間は講義ビデオの内容に関する質問を受け付けるために用いる。</p> <p>(a) Contents of the lecture</p> <p>[1] Minimum spanning tree problem and greedy algorithms</p> <p>[2] Correctness of Prim's and Kruskal's algorithm</p> <p>[3] Greedy algorithms for other problems</p> <p>[4] Shortest path problem and Dynamic Programming (DP)</p> <p>[5] DP Method (1) — Transform DFAs to regular expressions</p> <p>[6] DP Method (2) — Context-free grammar and its recognition problem</p> <p>[7] DP Method (3) — CYK algorithm for CFG recognition</p> <p>[8] DP Method (4) — Approximate string matching algorithms</p> <p>(b) How does this lecture proceed?</p> <p>For each problem, we first discuss on its background and motivation, and then give an algorithm for the problem. The correctness and time complexity analysis of the given algorithm will be discussed in details. Example runs will be used to enrich the understanding.</p> <p>Every lecture is given as a lecture video beforehand. At the lecture time, students can ask questions.</p>
授業時間外の学習(予習・復習等)	学生は、講義の内容に関連した問題をオンラインで解くことが要求される。 Students should solve some problems online related to lecture topics.

成績評価方法 および評価基準 (最低達成基準を含む)	成績は、与えた問題に対する評価で決まる。最低基準は、60%以上 正解することである。 Academic performance is evaluated by giving problems online. The lowest standard is 60%.
オフィスアワー: 授業相談	学生からの電子メールによる質問を受け付ける。 しかしながら、講義開始前に講義ビデオをすべて与えるので、講義時間に できるだけ質問してほしい。講義時間は、学生への質問に答えるために 利用する。 Students may ask questions by e-mails. Since all the lecture videos are provided before starting the lecture, please ask questions at the lecture time as far as possible. Each lecture time is used for answering questions of the students.
学生へのメッセージ	なし None.
その他	なし None
キーワード	Dynamic programming, greedy algorithms, context free grammars, etc.

令和4年度 3 大学英語化科目 シラバス登録フォーマット

授業科目名	学域特別講義 A(融合領域の最新動向 A)		
英文授業科目名	Special Lecture on Informatics and Engineering A (Current Topics in Emerging Multi-interdisciplinary Engineering A)		
開講年度	2022 年度 FY2022	開講年次	1/2/3/4
開講学期	前学期(夏季集中) Summer Lecture 9/8・9/9・9/12・9/13 13:00-16:10	開講コース・課程	情報理工学域 School of Informatics and Engineering
授業の方法	講義 Lecture	単位数	1
科目区分	総合文化科目／特別講義		
開講学科・専攻	全類 All clusters		
担当教員名	担当教員: 石上 嘉康. ISHIGAMI, Yoshiyasu 李 陽. LI, Yang 岩本 貢. IWAMOTO, Mitsugu バグス サントソ. BAGUS, Santoso 尚 方. SHANG, Fang 萱野 良樹. KAYANO, Yoshiki 小木曾 公尚. KOGISO, Kiminao 孫 光鎬. SUN, Guanghao 姜 銀来. JIANG, Yinlai		
居室	西3-205 Building West 3, Room 205		
公開 E-Mail	ishigami@uec.ac.jp		
授業関連 Web ページ	-		

講義情報

主題および 達成目標	「情報」と「理工」が融合する学問領域における最新のトピックスについて概観し、これに精通すること。 To outline and familiarize with the latest topics in the academic field where "information" and "science and technology" merge.
前もって履修 しておくべき科目	なし None
前もって履修しておく ことが望ましい科目	なし None
教科書等	なし

	None
授業内容とその進め方	<p>「情報」と「理工」が融合する学問領域における最新のトピックスについてⅡ類の各教員がオムニバス形式で講義を行う。</p> <p>About the latest topics in the academic field where “information” and “science and engineering” merge, each faculty member gives a lecture in an omnibus format.</p> <p>イントロダクション Introduction</p> <p>9月8日(木)3時限: 小木曾 公尚 准教授 1. 制御システムとサイバーセキュリティ 1. Control Technology and Cybersecurity</p> <p>9月8日(木)4時限: 尚 方 准教授 2. 人工衛星搭載合成開口レーダのデータ解析と応用例 2. Data interpretation and application examples of space-borne synthetic aperture radar</p> <p>9月9日(金)3時限: 孫 光鎬 准教授 3. 非接触バイタルサイン計測とその医療応用 3. Non-contact vital sign measurement and its clinical applications</p> <p>9月9日(金)4時限: 岩本 貢 教授 4. 情報理論的暗号: 最強の安全性の実現手法 4. Information-Theoretic Cryptography: How to realize the strongest security</p> <p>9月12日(月)3時限: 李 陽 准教授 5. 暗号システムのセキュリティ 5. Cryptosystems Security</p> <p>9月12日(月)4時限: バグス サントソ 准教授 6. 量子コンピュータに対しても安全な公開鍵暗号への紹介 6. Introduction to Post-Quantum Public Key Cryptography</p> <p>9月13日(火)3時限: 萱野 良樹 准教授 7. 環境電磁工学概論 7. Introduction to Electromagnetic Compatibility</p> <p>9月13日(火)4時限: 姜 銀来 准教授 8. 人間と機械をつなぐ 8. Interfacing Human and Machine</p>
授業時間外の学習 (予習・復習等)	各教員の指示に従う Follow the instructions of each teacher
成績評価方法 および評価基準 (最低達成基準を含む)	レポート Evaluation is based on class reports.
オフィスアワー: 授業相談	なし None
学生へのメッセージ	「情報」と「理工」が融合する学問領域における多様な世界観に触れてみましょう。

	Let's take a look at various views of the world in the academic field where "information" and "science and technology" merge.
その他	遠隔方式(zoom)で行う予定
キーワード	暗号化制御、合成開口レーダ、生体計測、暗号、セキュリティ、 ヒューマン・マシン・インターフェース、環境電磁工学、公開鍵暗号 Encrypted Control, synthetic aperture radar, Bio-measurement, Cryptography, Security, Human Machine Interface, Electromagnetic Compatibility (EMC), public-key cryptography

令和4年度 3 大学英語化科目 シラバス登録フォーマット

授業科目名	学域特別講義 A(基盤理工学 B)		
英文授業科目名	Special Lecture on Informatics and Engineering A (Current Topics in Fundamental Science and Engineering B)		
開講年度	2022 年度 FY2022	開講年次	1/2/3/4
開講学期、日にち、時限	前学期(夏季集中) Summer Lecture 9/7 13:00-16:10 9/8, 9/9 10:40-16:10 を予 定	開講場所	Ⅲ 類ゼミ室を予定
授業の方法	講義 Lecture	単位数	1
科目区分	総合文化科目／特別講義		
開講学科・専攻	全類 All clusters		
担当教員名	庄司 暁 Satoru Shoji		
居室	西2-309 Building West 2, Room 309		
公開 E-Mail	Satoru.shoji@uec.ac.jp		
授業関連 Web ページ			

講義情報

主題および 達成目標	<p>コミュニケーションに関連した新しい実践的な科学技術分野、「総合コミュニケーション科学」を創出するために必要な基盤理工学における現在のトピックを概説する。本講義では「総合コミュニケーション科学」を創造するために必要な学問分野とそれらの相互関係を理解することを目的とする。</p> <p>Make a review of current topics in fundamental science and engineering which are necessary for creating a new practical science and technology field related to communication “Comprehensive Communications Sciences”. In this course, aim an understanding the areas of academic discipline necessary for creating “Comprehensive Communications Sciences” and their interrelationships.</p>
前もって履修 しておくべき科目	なし None
前もって履修しておくこ とが望ましい科目	なし None
教科書等	なし None

<p>授業内容とその進め方</p>	<p>基盤理工学のうち、機械システム、電子工学、光工学、物理工学および化学生命工学の各分野から最近のトピックスについてオムニバス形式で講義を行う。また、研究室見学も実施する。集中講義は3日間を予定している。</p> <p>Of fundamental science and engineering, lecture in omnibus format on current topics from each field of mechanical system, electronic engineering, optical science and engineering, applied physics, chemistry and biotechnology. We will also conduct Lab. Tours. Intensive course is scheduled for 3 days.</p> <p>内容（予定）： Content :</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) イントロダクション Introduction (Prof. Sandhu Adarsh) (2) 摩擦の現象 Phenomenology of Friction (Prof. Matuttis Hans-Georg) (3) 単一原子、単一光子の制御と操作の研究見学（ラボツアー1） Lab. for control and manipulation of single atoms and photons (Kali Nayak Lab) (4) ゲノム解析とゲノム編集 Genome analysis and genome editing (Prof. Sampei Gen-ichi) (5) 究極の省エネ技術～ゼロ摩擦への挑戦～ Ultimate energy-saving technology – Challenge to zero friction (Prof. Naruo Sasaki) (6) デジタルホログラフィーを使った3次元イメージング Three-dimensional imaging with a digital holography (Prof. Eriko Watanabe) (7) 高度情報化社会のための量子ドット技術の進展 Progress in Quantum Dot Technologies for Advanced Information Society (Prof. Kouichi Yamaguchi) (8) デジタルホログラフィックイメージングの研究見学（ラボツアー2） Lab. for digital holographic Imaging (Watanabe Lab)
<p>授業時間外の学習（予習・復習等）</p>	<p>その日のうちに、興味を持った言葉や事柄を見つけて調べる。 Pick up and investigate interesting words and things in the day.</p>
<p>成績評価方法および評価基準（最低達成基準を含む）</p>	<p>講義に関する課題と、学んだ事柄についてのまとめたレポートを提出すること。また、講義ごとに小テストを行う。レポート点(60%)および小テスト(40%)で総合評価する。</p> <p>To submit a summary report including some tasks and what you learn in this course.</p> <p>Also, give a brief quiz in each lecture. Comprehensive evaluation is made at the report points (60%) and quizzes (40%).</p>
<p>オフィスアワー：授業相談</p>	<p>随時受け付けます。予めメールでアポイントを取ってください。</p> <p>Please make an appointment before coming to my office. Contact: Building West 2, Room 309</p>

	Satoru.shoji@uec.ac.jp
学生へのメッセージ	興味を持つことが重要です。 It is important to be interested in anything!!
その他	なし None
キーワード	機械システム、電子工学、光工学、物理工学、化学生命工学 Mechanical system, Electronic engineering, Optical science and engineering, Applied physics, Chemistry and Biotechnology

授業科目名	学域特別講義A(基礎物理学実験)		
英文授業科目名	Special Lecture on Informatics and Engineering A (Introduction to Physics Laboratory)		
開講年度	2022 年度 FY2022	開講年次	電通大生 2/3/4 東外大生・農工大生 1/2/3/4
開講学期、日にち、時限	夏季集中(変更の可能性あり) late Aug～early Sept. in First semester (90 min×3)×5 days	開講場所	D 棟 2 階および 3 階物理実験室 Lab rooms on the 2nd and 3rd floor of Building D
授業の方法	実験 Lab work	単位数	1
科目区分	総合文化科目／特別講義		
開講学科・専攻			
担当教員名	未定 TBD		
居室	D 棟 2 階教員控室 Teacher's waiting room on the 2nd floor of Building D.		
公開 E-Mail	phys_lab@e-one.uec.ac.jp		
授業関連 Web ページ	http://physics.e-one.uec.ac.jp/ (in Japanese)		

講義情報

主題および 達成目標	<p>(a) 主題「基礎物理学実験」の目的は、基礎的な物理学の実験を通して科学の方法を体得することである。物理の法則を体で体験することによって理解してほしい。いろいろな実験装置に触れ、さまざまな物理量を計測して、実験の手法に慣れることは理工系の学生として必須である。</p> <p>(b) 達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の実験における測定の原理を理解すること。 ・使用する各種の実験装置と計測器に慣れること。 ・測定値の処理の仕方(不確かさの計算, 有効数字の概念)を習得すること。 ・レポートの作成および論理的な文章の作成に慣れること。 <p>(a) The aim of the Physics Laboratory is to master the skills of researcher and engineer through fundamental physics experiments. It is essential for the students studying science and technology to touch various experimental devices, measure various physical quantities, and become accustomed to experimental methods.</p> <p>(b) Achievement goal is</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ to understand the principle of measurement in each experiment, ・ to become accustomed to various experiment equipment and measuring instruments to be used,
---------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> · to master how to process measured values (calculation of uncertainty, concept of significant figures), · getting used to writing reports and creating logical sentences.
前もって履修しておくべき科目	なし Nothing in particular
前もって履修しておくことが望ましい科目	なし None in particular
教科書等	教科書:「基礎物理学実験」(学術図書出版社) 実験ノート(5mm 方眼)、方眼紙、関数電卓、ノート PC Textbook: "Kisobutsurigakujikken" (English version will be available) Students will also bring experimental note book (cross-sectional type), graph paper, scientific calculator. Your laptop PC is available.
授業内容とその進め方	<p>【1日目: 13:00～17:45】</p> <p>第1回: ガイダンス(履修する学生は必ず出席すること)</p> <p>第2回: 計測機器の使用法、計測値の取り扱い</p> <p>第3回: 安全教育</p> <p>【2日目: 10:40～17:45】</p> <p>第4回～第7回 実験1</p> <p>【3日目: 10:40～17:45】</p> <p>第8回～第11回 実験2</p> <p>【4日目: 10:40～17:45】</p> <p>第12回～第15回 実験3</p> <p>第4～15回: 以下の6テーマより、予め割り当てられた実験を行う。 原則として4回(1日)で1テーマを行う。</p> <p>1. 重力加速度 2. 液体の比熱 3. 等電位線 4. 光のスペクトル 5. エアトラックによる力学実験 6. 放射線の計測</p> <p>(b) 実験の進め方</p> <p>実験開始時に出席を兼ねて、その日の実験内容に関する小テストを行なうことがある。その後、主として内容の概略や注意点、テキストに掲載されていない補足説明を受け、実験に取り掛かる。テーマによって、1人で実験するものからグループで行なうものがある。計測等の実験終了後、その場でレポート作成を行う。ノート PC を使用してもよい。</p> <p>#1 Guidance. Students who take classes must attend. #2 Instruction of experimental equipment and analysis of measured values #3 Safety education #4 to #15: Exchange 3 themes in turn from the 6 experiments as follows.</p>

	1. Gravitational acceleration 2. Specific heat of liquid 3. Two-dimensional equipotential lines 4. Spectrum of light 5. Mechanical experiment using air track 6. Measurement of radiation The experiments will be one theme in a day. After the experiment such as measurement, we will make a report on the spot. You may use a laptop PC.
授業時間外の学習 (予習・復習等)	実験テキスト及び実験のwebページ, LMSを参考に予習を必ず行なうこと. It might be difficult to keep up with the experiment without studying the materials in advance. Students should prepare with textbook and LMS-contents.
成績評価方法 および評価基準 (最低達成基準を含む)	成績基準および成績評価は以下による. (1) 正規の3テーマの実験を全て行い, それら3通のレポートが受理されていること. 再提出を指示されたレポートは, 再提出しなければ評価されないので注意すること. (2) 各レポートは5点満点で評価し, 合計点が9点以上であること. Each report should be evaluated on a scale of 5. Successful candidates will satisfy the following conditions. 1. Three regular experiments were performed and the three reports were received. 2. The total score of the reports is greater than or equal to 9.
オフィスアワー: 授業相談	【オフィスアワー】集中講義形式であるので、授業後に質問を受け付ける. 【Office Hour】 As it is an intensive lecture, you will receive questions after class.
学生へのメッセージ	自然現象をモデル化して理解する過程を実験を通して体感して下さい。また様々のルールに従ったレポート作成技術は、理工系学生に必須のスキルであるので、その修得に努めてください。 Please experience the process of modeling to describe natural phenomena through experiments. In addition, skills to write scientific and engineering report following various rules are essential for YOU, so please strive to acquire them.
その他	
キーワード	物理学実験, 測定値の処理, 不確かさの計算, 報告書の作成, 論理的文章 Physics experiment, processing of measured values, calculation of uncertainty, preparation of report, logical sentences

令和4年度 3 大学英語化科目 シラバス登録フォーマット

授業科目名	学域特別講義 A(基礎化学実験)		
英文授業科目名	Special Lecture on Informatics and Engineering A (Introduction to Chemistry Laboratory)		
開講年度	2022 年度 FY2022	開講年次	電通大生 2/3/4 東外大生・農工大生 1/2/3/4
開講学期、日にち、時限	前学期(夏季集中) late Aug~early Sept. in First semester (90 min×3) × 5 days	開講場所	D 棟4階実験室 Lab rooms on 4th floor of Build. #D
授業の方法	実験 Lab work	単位数	1
科目区分	総合文化科目／特別講義		
開講学科・専攻			
担当教員名	小林 義男 KOBAYASHI, Yoshio		
居室	東6-901 Bldg. East #6 Room 901		
公開 E-Mail	kagaku [at] e-one.uec.ac.jp		
授業関連 Web ページ			

講義情報

主題および 達成目標	<p>基礎化学実験の目的</p> <p>(1) 実験に対する姿勢を身につける。 (2) 実験を通じて化学を学ぶ。 (3) 基本的実験操作を体得する。</p> <p>高校までの理科科目の学習では実地に「もの(物質)」に触れ、理論や法則を目のあたりに確認する機会が多くない。紙の上での理解に陥り易く、また理解そのものも表面的になりがちである。このクラスでは、実験を通じて基礎的物質観を養うことを目的とする。さらに、現代化学の重要な手法であるスペクトロスコピーを導入するとともに、安全と環境への配慮も身につける。理系学生の基礎を養うトレーニングコースと位置付けている。</p> <p>Purpose of Chemistry Laboratory</p> <p>(1) You learn the readiness of the chemical experiment. (2) You study chemistry through the experiments. (3) You understand the fundamental chemical procedures.</p> <p>“Chemistry Laboratory (Fundamental Science Laboratory B)” is opened to all departments from the viewpoint of the basic materials science. You also learn the spectroscopies that are the most important methodologies in modern science, and</p>
---------------	--

	safety and environmental problems. This program is positioned as a training course to cultivate the foundation for the university students that study science and engineering.
前もって履修しておくべき科目	なし Nothing in particular
前もって履修しておくことが望ましい科目	なし None in particular
教科書等	教科書:「基礎科学実験B」(電気通信大学化学教室編) 生協で販売するので、ガイダンスのときに持参して下さい。 Textbook “Fundamental Science Laboratory A – Chemistry –”. Bring the textbook at the guidance.
授業内容とその進め方	<p>※ 社会情勢(新型コロナ感染症対策)により、遠隔授業または中止となることがあります。</p> <p>授業内容 【1日目:9/15(火)13:00~17:45】 第1回 ガイダンス(履修者は必ず出席すること) 第2回 安全教育 第3回 ガラス器具の基本操作 【2日目:9/16(水)10:40~17:45】 第4回 実験1の説明 第5・6回 実験1 第7回 実験1のレポート作成 【3日目:9/17(木)10:40~17:45】 第8回 実験2の説明 第9・10回 実験2 第11回 実験2のレポート作成 【4日目:9/18(金)10:40~17:45】 第12回 実験3の説明 第13・14回 実験3 第15回 実験3のレポート作成</p> <p>実験1・2・3は、以下から事前に決定する。 ・デュマ法による分子量測定 ・ダニエル電池の起電力測定 ・コロイドの作製と物性評価 ・吸光光度法による鉄の定量 ・紫外可視吸収スペクトルと分子軌道 ・カフェインの抽出と紫外吸収スペクトル ・アスピリンの合成と赤外分光法 ・定性分析</p>

	<p>担当教員が実験における注意点や内容の説明をする。実験をはじめる前に簡単なテストを行ない、実験内容の理解度の確認をする。終了後、実験レポートを作成して、提出する。実験ノートの記載内容を確認して検印を押し、後片付けをする。</p> <p>Contents</p> <p>※ It may be a remote lecture or cancelled depending on the social situation for the COVID-19 infection.</p> <p>#1 Guidance #2 Safety education #3 Instruction of experimental apparatus #4 Instruction of Exp. 1 #5, 6 Exp. 1 #7 Report generation of Exp. 1 #8 Instruction of Exp. 2 #9, 10 Exp. 2 #11 Report generation of Exp. 2 #12 Instruction of Exp. 3 #13, 14 Exp. 3 #15 Report generation of Exp. 3</p> <p>Exp. 1, 2 and 3 are selected in advance from the following item.</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ Molecular weight measurement by Dumas method ▪ Electromotive force of Daniel cell ▪ Colloid ▪ Determination of iron by absorption spectrophotometry ▪ Ultraviolet-visible absorption spectrum and molecular orbitals ▪ Extraction of caffeine and ultraviolet absorption spectrum ▪ Preparation of Aspirin and Infrared spectroscopy ▪ Qualitative analysis of metal ions <p>Before class starts, make sure you understand the experiment. You are supposed to do and all safety aspects. At the beginning of each experiment, the instructor will lecture on the experiment. Experimental notes should be recorded in your lab notebooks during the experiment. Record all observations and events. Sketch the apparatus. After the experiment, submit the report.</p>
<p>授業時間外の学習 (予習・復習等)</p>	<p>実験前にテキストを良く読み、実験内容を十分理解しておいてください。実験終了後、実験内容をまとめてレポートとして提出すること</p> <p>Read the experimental purpose and the chemical procedure before the experiment, and understand the contents of the experiment. It is important to summarize the experimental procedure in your notebook.</p>

<p>成績評価方法 および評価基準 (最低達成基準を含む)</p>	<p>レポートは以下の項目で評価する。欠席および未提出レポートが無いことを原則とする。</p> <p>成績評価のポイント</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 実験内容の理解 (2) 実験操作と観察結果の記録 (3) データ整理 (4) 結果の表やグラフの書き方 (5) 結果について論理的考察 <p>Reports must be submitted on time within one week of the experiment. Marks will be evaluated the following points:</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) Understanding of the experimental context (2) Experimental procedure and record of observation results (3) Data handling (4) Writing the obtained results in graphs and tables (5) Logical and chemical discussions on the experimental results
<p>オフィスアワー: 授業相談</p>	<p>オフィスアワー: 小林(全体責任者) 土曜3限 D棟4階教員控え室 履修などの問い合わせは、化学事務室(東1-211)に電子メール(kagaku [at] e-one.uec.ac.jp)でも受け付けます</p> <p>Office hour : Saturday 13:00~14:30 at D-bldg. 4F. Contact : Chemistry Office at East #1 bldg. Room 211. e-Mail : yoshio.kobayashi [at] uec.ac.jp</p>
<p>学生へのメッセージ</p>	<p>いろいろな化学実験を行い、得られた実験データに基づいてレポートを作成する。通常の講義とは違って、学ぶことも得られるものも多い。知識を身につけるだけではなく、理科系のいわば基礎体力を養うトレーニングコースである。</p> <p>You carry out various experiments of chemistry and submit the report based on the obtained data. Unlike ordinary lectures, you can obtain many things that can be learned. This class is one of the training courses that cultivate fundamental chemistry.</p>
<p>その他</p>	
<p>キーワード</p>	<p>デュマ法による分子量測定、ダニエル電池の起電力測定、コロイド、吸光光度法による鉄の定量、カフェインの抽出と紫外吸収スペクトル、アスピリンの合成と赤外分光法、定性分析</p> <p>Molecular weight measurement, Dumas method, Electromotive force (E. M. F.), Daniel cell, Colloid, Absorption spectrophotometry, Ultraviolet-visible absorption spectrum, Molecular orbitals, Caffeine, Ultraviolet absorption spectrum, Preparation of Aspirin and Infrared spectroscopy, Qualitative analysis of metal ions</p>

令和4年度 3 大学英語化科目 シラバス登録フォーマット

授業科目名	Experimental Electronics Laboratory		
英文授業科目名	Experimental Electronics Laboratory		
開講年度	2022 年度 FY2022	開講年次	電通大生 2/3 東外大生・農工大生 1/2/3
開講学期、日にち、時限	後学期 Second semester 木曜日 13:00～16:10 Thursday 13:00～16:10	開講場所	西 8 号館 317 号室 Bldg. West 8, room 317
授業の方法	実験 Lab work	単位数	2
科目区分	専門科目		
開講学科・専攻	Ⅲ 類 Cluster Ⅲ		
担当教員名	岸本		
居室	東 6 号館 628 号室 Building East 6, Room 628		
公開 E-Mail	kishi(at)pc.uec.ac.jp		
授業関連 Web ページ	none		

講義情報

主題および 達成目標	<p>この実験科目は、電気電子回路の基本を実験しながら修得することがテーマになります。この科目では、アナログ受動素子回路、アナログ能動素子回路、デジタル回路の3分野から選りすぐった計7つの必修テーマに関して、実際に様々な回路を組み立て動作させる作業を通して、電気電子回路に関する基本的な理解と応用力を身につけます。</p> <p>This course is designed for students who have no or little practical knowledge of electrical circuits. They will learn the basics of analog and digital electronics through hands-on experiments combined with short lectures to enhance their fundamental understanding of electronic circuits.</p>
前もって履修 しておくべき科目	<p>基礎的な電気回路に関する科目</p> <p>Basic Electronics</p>
前もって履修しておく ことが望ましい科目	<p>複素数についても学んでおくとよい。</p> <p>Analysis, especially complex numbers.</p>
教科書等	<p>実験手順が記述されたテキストの pdf ファイルが用意されています。</p> <p>A pdf version of the instruction manual will be provided during the class.</p>
授業内容と その進め方	<p>7つの必修実験テーマに関して、実際に様々な回路を組み立て動作させる作業を通して、電気現象および電気回路や電子回路に関する基本的な理解と応用力を身につけます。また、実験した内容を報告書にまとめる能力を養います。自分が実験した結</p>

	<p>果および理解した内容を文書をとおして適切に人に伝えることができるようなトレーニングを行います。</p> <p>第1週を全体ガイダンスとし、その後、下記の項目の実験を行います。クラスは、「実験の週」と、「提出レポートに関する講評および口頭試問の週」を交互に受講していきます。尚、実験は、学生が2人1組で行います。</p> <p>※新型コロナの影響で、テーマや運営方法に変更が生じる可能性があります。</p> <p>(第1週) 全体共通ガイダンス (第2週) 英語クラスガイダンス (第3週) インピーダンスの周波数測定1 抵抗 (第4週) レポート講評 インピーダンスの周波数測定1 抵抗 (第5週) インピーダンスの周波数測定2 インダクタとキャパシタ (第6週) レポート講評 インピーダンスの周波数測定2 インダクタとキャパシタ (第7週) LC 共振回路 (第8週) レポート講評 LC 共振回路 (第9週) ラジオ信号送信と LC 共振回路を用いた受信 (第10週) レポート講評 ラジオ信号送信と LC 共振回路を用いた受信 (第11週) LED とトランジスタ (第12週) レポート講評 LED とトランジスタ (第13週) オペアンプとその応用(LED を用いた信号の送受信) (第14週) レポート講評 オペアンプとその応用(LED を用いた信号の送受信) (第15週) 論理回路</p> <p>Each student builds the following electrical circuits on the solderless breadboard. He or she then measures and analyzes various properties. The experiments are carried out every other week, and classroom discussion is held in between.</p> <p>※ Depending on the COVID-19 situation, some of the hands-on projects and how the class will be held may be changed.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) Measurement of resistance. 2) Measurement of complex impedance for C and L. 3) Resonant behavior of LC-circuits. 4) Transmission of radio signals and collection using LC-circuits. 5) Transistors and LEDs. 6) Operation amplifiers and their applications. (transmit and receive sound signals using LEDs). 7) Logic gates.
授業時間外の学習 (予習・復習等)	<p>実験をきちんと実施するためには、あらかじめテキストを十分予習し、実験で用いる素子の基本的な理解をしておく必要があります。</p> <p>Please study the basic technical terms of the IC you will work on each week before performing the electronics laboratory experiments.</p>
成績評価方法 および評価基準 (最低達成基準を含む)	<p>(a)評価方法:</p> <p>{実験レポート}(60%)、{実験時や講評時における取り組みの様子}(40%)を、おおむね上記の割合で総合的に評価します。</p>

	<p>(b)評価基準 以下の到達レベルをもって合格の最低基準とします。</p> <p>(1) 実験をすべて実施すること。 (2) 実験に関するレポートを定められた期日までに全て提出すること。 (3) 口頭での講評を受けて、実験に関する全てのレポートが担当教員に受理されること。ただし、レポートの再提出を指示された場合には、それぞれ決められた期日までに再提出しなければ、受理されたとはみなされない。 (4) 講評時の講義中の議論に参加すること。 (5) 成績評価の平均が S ABCD の 5 段階評価のうち、C 以上であること。</p> <p>すなわち、各実験テーマについての基本原理と基本動作を理解して実際に実験実施できるとともに、実施した実験内容を正しく報告書にまとめることができること。</p> <p>It is mandatory to finish all the projects listed above in order to acquire the credit. The attitude and motivation towards the experimental work accounts for 40% of the evaluation score. These 40% include potential evaluation through random oral examination or open discussion of the knowledge acquired through self-studies and post-laboratory lectures. The remaining 60% correspond to the evaluation of the submitted reports which should be logically organized to clearly present the results obtained during the experimental class and discuss them. Delayed submission of these reports will decrease the student's evaluation score.</p>
<p>オフィスアワー: 授業相談</p>	<p>実験時間中やレポート講評時間中に、担当教員が適宜相談に応じます。不明点等に対しては積極的に質問してください。</p> <p>連絡先: 東 6 号館 628 号室 内線 5449、kishi(at)pc.uec.ac.jp Please make an appointment before coming to my office. Contact: Bldg-E6, room 628 Ext:5449 kishi(at)pc.uec.ac.jp</p>
<p>学生へのメッセージ</p>	<p>この英語クラスは、なるべく楽しく学びながら理解を深めていけるような実験テーマを用意しております。</p> <p>We constantly improve the various projects to ensure that students learn basic electronics circuits while having fun. So come and have fun playing with electronic circuits in a multicultural environment!</p>
<p>その他</p>	<p>この講義は、短期留学生と電通大学部2年生の希望学生による合同クラスとして、英語ベースで行われています。</p> <p>The course was originally designed for JUSST students, but regular students are more than welcome to take it.</p>
<p>キーワード</p>	<p>複素インピーダンス、インダクタ、コンデンサ、論理ゲート、オペアンプ、トランジスタ complex impedance, inductor, capacitor, logic gate, operational amplifier, bipolar junction transistor.</p>

令和4年度 3 大学英語化科目 シラバス登録フォーマット

授業科目名	UEC Academic Skills I (Computer Literacy)		
英文授業科目名	UEC Academic Skills I (Computer Literacy)		
開講年度	2022 年度 FY2022	開講年次	電通大生 1/2/3/4 東外大生・農工大生 1/2/3/4
開講学期、日にち、時限	後学期 Second semester 火曜日 9:00～10:30	開講場所	C 棟 401 (演習室) C building 401 (Computer Room)
授業の方法	講義 Lecture	単位数	2
科目区分	総合文化科目		
開講学科・専攻	全類 All clusters		
担当教員名	Choo Cheow Keong		
居室	East 2-305		
公開 E-Mail	uec-as1@fedu.uec.ac.jp		
授業関連 Web ページ	http://www.fedu.uec.ac.jp/skills		

講義情報

主題および 達成目標	<p>この授業は、情報社会の基本的な倫理と法順守の理解から始まり、Unix システムの基本操作、LaTeX によるドキュメント作成やホームページ制作まで学習する授業である。英語で授業を履修し、コンピュータに関する基礎的な知識・スキルを身につける。(技術力・英語力はいっさい問いません。短期交換留学生と一緒に学べる英語授業科目ので、是非皆さんも気軽に来てみてください)</p> <p>This course gives the students the intermediate-advanced knowledge of computer systems and computer networks in a typical academic environment. The lecture stresses fundamental tools and techniques that are applicable to a broad reach of systems such as the use of primitive, but powerful tools as UNIX shell, HTML, LaTeX and Git/GitHub.</p>
前もって履修 しておくべき科目	なし NIL
前もって履修しておく ことが望ましい科目	コンピュータリテラシー Computer literacy
教科書等	なし NIL

<p>授業内容とその進め方</p>	<p>授業は基本的に対面となるが、オンライン(リアルタイム)も受講できるように準備している。学生の希望とコロナの事情によって講義全部オンライン(リアルタイム)となる場合もある。</p> <p>以下に各回の主な学習項目を示す。一般のコンピューターリテラシーの内容とほぼ同じだが、論文執筆に向けた基本的な LaTeX ファイルの書き方を中心に構成されていて、グループワークと発表も兼ねている。</p> <p>授業内容 Course schedule and topics that will be covered</p> <hr/> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction (Usage: The Information Technology Center ITC, UEC campus network use policies) 2. Computer operating system and Tools (fundamentals) 3. Unix operating system (fundamentals) 4. Unix operating system (The Internet and computer network) 5. Word Processing and LaTeX (Basic Unix Editor and LaTeX) 6. LaTeX (Environments and layout; LaTeX commands, Structure, Package, Class, style, Text typesetting) 7. LaTeX (Mathematical Formulas) 8. LaTeX (Displayed; Lists, Tabulator, Tables) 9. LaTeX (Displayed; Graphics, Drawing) 10. LaTeX (Labels, Cross-referencing, Citations and Bibliography) 11. Introduction to Git and GitHub (Overview; applications, Website project) 12. HTML (Basic; Structure, Tag, color, typesetting) 13. HTML (Links and Multimedia; Images, Sound, and Movies) 14. HTML (List, Tables and Interactivity, Cascading Style Sheet; CSS) 15. HTML (Website Project Work) <hr/> <p>This is a lecture-lab course in which the instructor presents the topics, and the students complete the assignments during lab periods or outside of class. The content is intended to be a lecture in combination with a practical exercise ("learn, practice, implement and apply") that will cover the basic usage of the UNIX system, and including how to write in LaTeX and HTML.</p> <p>Note that the lecture schedule is subject to constant revisions throughout the course.</p>
<p>授業時間外の学習 (予習・復習等)</p>	<p>作成したホームページの発表の準備など</p> <p>Students are required to create/design a homepage and present it in class at the end of the semester. Thus, the student may need some extra time to create the homepage.</p>

<p>成績評価方法 および評価基準 (最低達成基準を含む)</p>	<p>評価方法（毎週の課題 50%, 中間発表 30%, 期末発表 20%） 出席が授業回数の 70%に達することを前提条件としている。</p> <p>Evaluation is given as follows; (Tasks 50%, Mid-Semester presentation 30%, Final presentation 20%)</p> <p>Since this course is a practical course, attendance and participation in class are obligatory. Only students who have 1) maintained at least 70% of the attendance, 2) submitted all the assignments and 3) made their Mid-semester & final presentations can obtain the credits.</p>
<p>オフィスアワー: 授業相談</p>	<p>12:00-13:00、先ずはメールで連絡を。 12:00-13:00, for just-in-case, schedule an appointment before walking in.</p>
<p>学生へのメッセージ</p>	<p>授業に積極的参加と発言をし、活発な質問や議論を行ってくれることを期待する。</p> <p>We expect students to be the active part of the learning process. We encourage the students' participation in class discussions, asking questions and interacting with others. If you have any comments on the topics covered, please feel free to share with the others in class.</p>
<p>その他</p>	<p>遅刻することなく時間通りに出席し、やむを得ない理由で欠席する或いはした場合には、必ず連絡をすること。</p> <p>Students are expected to come to class on time. Absences are excused in case of emergency, illness, or trips to conferences.</p>
<p>キーワード</p>	<p>Unix, HTML, Latex, Website, Git/GitHub</p>

令和4年度 3 大学英語化科目 シラバス登録フォーマット

授業科目名	UEC Academic Skills II (Information Literacy and Research)		
英文授業科目名	UEC Academic Skills II (Information Literacy and Research)		
開講年度	2022 年度 FY2022	開講年次	電通大生 2/3/4 東外大生・農工大生 1/2/3/4
開講学期、日にち、時限	後学期 Second semester 火曜日 10:40~12:10	開講場所	C 棟 401 (演習室) C building 401 (Computer Room)
授業の方法	講義 Lecture	単位数	2
科目区分	総合文化科目		
開講学科・専攻	全類 All clusters		
担当教員名	Choo Cheow Keong		
居室	East 2-305		
公開 E-Mail	uec-as2@jusst.fedu.uec.ac.jp		
授業関連 Web ページ	http://www.fedu.uec.ac.jp/skills		

講義情報

主題および 達成目標	<p>この授業は、図書館を活用して論文と科学技術資料を検索し、収集した一次情報の整理と仕分けの基礎を習得する。演習では、オープンソース・フリーウェアを活用して、マインドマップ、図形、グラフや発表ポスターを作成しながら、相手に伝わる理解しやすい資料を作成する基礎スキルを学ぶ。学期末には、ポスタープレゼンテーション(発表)を行う。(対象学生は、学部2年以上と大学院生で、技術力・英語力はいい問いません。留学生と一緒に学べる英語授業科目なので、是非皆さんも気軽に来てみてください)</p> <p>This course is designed to foster students' ability to identify, evaluate and use diverse information sources effectively in science and engineering studies. It involves the knowledge of information technology tools and their application to research. Students are required to give a poster presentation on their major study or research at the end of the semester.</p>
前もって履修 しておくべき科目	コンピュータリテラシー UEC Academic Skills I (Computer Literacy)
前もって履修しておく ことが望ましい科目	なし NIL
教科書等	なし NIL

<p>授業内容とその進め方</p>	<p>以下に各回の主な学習項目を示す。研究に必要不可欠な情報資源である大学図書館の所蔵文献、学術データベースや電子ジャーナルまたは検索システムを利用して検索し文献を検索、収集と管理に係る一連の手法を習得する。また講義では、科学技術や理工系における必須な図形描画、表計算、グラフ作成やポスター製作についての知識と技術を実習する。</p> <p>授業内容 Course schedule and topics that will be covered</p> <hr/> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction (Usage: The Information Technology Center etc.) 2. Scientific literatures and resources retrieval (UEC Library) 3. Mind mapping, brain storming 4. Academic Integrity (Referencing, citing, create bibliographies) 5. Managing and sharing resources 6. Writing a research proposal 7. Scientific drawing, Charts, Diagrams and Timelines (Inkscape, GIMP) 8. Tables, Graphs (SciDAVis) 9. Desktop publishing for scientific poster (Scribus) 11. Creating effective scientific poster 12. Formula editor (word processing) 12. Writing an Abstract for a research 13. Preparation for presentation 14. Poster presentation 1/2 15. Poster presentation 2/2 <hr/> <p>The course introduces the use of some powerful tools for scientific research and engineering, field. The lectures include hands-on learning and applicable exercises that assumes no any previous experience or training, so the initial emphases are on the use of the basic scientific software and the basic research procedures.</p> <p>Note that the lecture schedule is subject to constant revisions throughout the course.</p>
<p>授業時間外の学習 (予習・復習等)</p>	<p>現在研究している内容、或いは興味のあるテーマの学術論文(1～3通)を纏めて、ポスター発表することが望まれる。</p> <p>Students have to read 1 to 3 articles about varied topics, and at the end of the semester, the students are expected to make a poster presentation.</p>

<p>成績評価方法 および評価基準 (最低達成基準を含む)</p>	<p>評価方法（毎週の課題 50%, 中間発表 20%, ポスター発表 20%） 出席が授業回数の 70%に達することを前提条件としている。</p> <p>Evaluation is given as follows; (Assignments 50%, midterm presentation 20%, Poster presentation 30%)</p> <p>Since this course is a practical course, attendance and participation in class is obligatory. Only students who have 1) maintained at least 70% of attendance, 2) submitted all the assignments and 3) made their poster presentations can obtain the credits.</p>
<p>オフィスアワー: 授業相談</p>	<p>12:00-13:00、まずはメールで連絡を。 12:00-13:00, for just-in-case, schedule an appointment before walking in.</p>
<p>学生へのメッセージ</p>	<p>授業に積極的参加と発言をし、活発な質問や議論を行ってくれることを期待する。</p> <p>We expect students to be the active part of the learning process. We encourage the students' participation in class discussions, asking questions and interacting with others. If you have any comments on the topics covered, please feel free to share with the others in class.</p>
<p>その他</p>	<p>遅刻することなく時間通りに出席し、やむを得ない理由で欠席する或いはした場合には、必ず連絡をすること。</p> <p>Students are expected to come to class on time. Absences are excused in case of emergency, illness, or trips to conferences.</p>
<p>キーワード</p>	<p>研究、情報探索、デスクトップパブリッシング、ポスター発表 Research, library, Desktop publishing, poster presentation</p>

令和4年度 3 大学英語化科目 シラバス登録フォーマット

授業科目名	UEC Academic Skills III (Publishing Literacy and Research)		
英文授業科目名	UEC Academic Skills III (Publishing Literacy and Research)		
開講年度	2022 年度 FY2022	開講年次	電通大生 3/4 東外大生・農工大生 1/2/3/4
開講学期、日にち、時限	後学期 Second semester 木曜日 9:00～10:30	開講場所	東 3 号館 1 階 (演習室) E3 building 1 st floor (Computer Room)
授業の方法	講義 Lecture	単位数	2
科目区分	総合文化科目		
開講学科・専攻	全類 All clusters		
担当教員名	Choo Cheow Keong		
居室	East 2-305		
公開 E-Mail	uec-as3@fedu.uec.ac.jp		
授業関連 Web ページ	http://www.fedu.uec.ac.jp/skills		

講義情報

主題および 達成目標	<p>この授業は、学生が各自の研究テーマ(或いは調査研究)に合わせて研究計画の立案、情報収集、研究・調査の遂行、研究論文の作成や投稿までの一覧の課程を通して研究や発表の基礎的スキルを学習する。また、科学者や技術者がその職務を遂行する上で、守るべきモラル・倫理についても学習する。学期末には、口頭発表を行う。(対象学生は、学部3年以上と大学院生で、技術力・英語力はいっさい問いません。短期交換留学生と一緒に学べる英語授業科目なので、是非皆さんも気軽に参加ください)</p> <p>*国際科目全般は、短期留学生の来日にあわせて授業開始するので、通常の授業より1-2週間遅くなる場合がある。担当教員に確認してください。</p> <p>This course focuses attention on the exercise of strategic research project. Students are required to carry out a study/research project for more than a half of year with a specific topic. Then, they have to proceed their own project after they choose their own topic and make a monthly plan. At the end of the semester, there will be an international mini-conference that has participants of all the JUSST Exchange Students and other regular UEC Students.</p>
前もって履修 しておくべき科目	コンピュータリテラシー UEC Academic Skills I (Computer Literacy)
前もって履修しておく ことが望ましい科目	UEC Academic Skills II (Information Literacy and Research)

教科書等	なし NIL
授業内容とその進め方	<p>以下に各回の主な学習項目を示す。講義では、科学技術や理工系における論文執筆から発表・投稿までの基礎知識を身につける。</p> <p>授業内容 Course schedule and topics that will be covered</p> <hr/> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction (Usage: The Information Technology Center etc.) 2. Academic Integrity (Interesting and Unpublished, Scientific misconduct) 3. Researcher's outputs (Why, How, Where) 4. Planning the research/research protocol (LaTeX editor, Mind mapping, brainstorming etc.) 5. Proposing and Reporting on Research 6. Making scientific presentation 7. Midterm Presentation 1/2 8. Midterm Presentation 2/2 9. Brush up on your skills (Handling Q&A) 10. Communication and Correspondence (Peer, Researcher, Editor, etc.) 11. Academic publishing (Overviews; Dissertation, Monograph, Scientific paper) 12. Academic publishing (Procedures, Processes and standards) 13. Assessment and evaluation 14. Oral presentation 1/2 15. Oral presentation 2/2 <hr/> <p>The lecture is designed to support the pursuit of writing research paper and share the skills of quality publishing. All the lectures are linked with practical activities, and at the end of the course, the students are required to write a paper and give a presentation on their research-based projects.</p> <p>Note that the lecture schedule is subject to constant revisions throughout the course.</p>
授業時間外の学習 (予習・復習等)	<p>現在研究している内容、或いは興味のあるテーマの学術論文(2～3通)を纏めて、発表することが望まれる。</p> <p>Students have to read 2 to 3 articles about varied topics and at the mid and end of the semester, the students are expected to give an oral presentation.</p> <p>For laboratory assigned students, the essential project hours are estimated for more than 8 hours a week, where this is the same standard of graduate thesis project.</p>

<p>成績評価方法 および評価基準 (最低達成基準を含む)</p>	<p>評価方法（毎週の課題 40%, 論文作成 30%, 口頭発表 30%） 出席が授業回数の 70%に達することを前提条件としている。</p> <p>Evaluation is given as follows; (Assignments 40%, Writing paper 30%, Oral presentation 30%)</p> <p>Since this course is a practical course, attendance and participation in class are obligatory. Only students who have 1) maintained at least 70% of attendance, 2) submitted the writing paper and 3) made their final presentations can obtain the credits.</p>
<p>オフィスアワー: 授業相談</p>	<p>12:00-13:00、まずはメールで連絡を。 12:00-13:00, for just-in-case, schedule an appointment before walking in.</p>
<p>学生へのメッセージ</p>	<p>授業に積極的参加と発言をし、活発な質問や議論を行ってくれることを期待する。</p> <p>We expect students to be the active part of the learning process. We encourage the students' participation in class discussions, asking questions and interacting with others. If you have any comments on the topics covered, please feel free to share with the others in class.</p>
<p>その他</p>	<p>遅刻することなく時間通りに出席し、やむを得ない理由で欠席する或いはした場合には、必ず連絡をすること。</p> <p>Students are expected to come to class on time. Absences are excused in case of emergency, illness, or trips to conferences.</p>
<p>キーワード</p>	<p>研究、論文作成と投稿、口頭発表 Research, Publishing paper, oral presentation</p>